

漢史一斑

永井八郎編

四

129			
2			
54			
四	四	一	〇
冊	號	架	函

本

K110.22	
45	
4	

漢史一斑 第四卷

明治十年圖書局發行

小永井八郎 編

成祖文皇帝

諱ハ、順天、

祖ノ第四

永樂元年、北平

改ノ

順天府

トス

北京ヲ置ク、戸部尚書夏原

吉ニ命

ヲ、吳淞江

ヲ

浚フ、嘉興蘇松ノ諸郡水災

アリ、原吉之ヲ治ム

二年、僧道衍ヲ太子少師ト

姓ヲ姚ト復シ、名ヲ廣孝ト賜フ、終ニ蓄髮シ、妻

娶ラス、

道衍ハ燕ニ在リテ奇

者ナリ

四年、未能ヲ征

夷將軍トシテ安南ヲ討ス、能軍ニ卒ス、張輔之ニ

代ハリ、大ニ安南ヲ破ル、五年、西僧哈立麻ヲ大

竇法王トス、天下ノ釋教ヲ領ス、皇后徐氏崩ス、后ハ中山王達ノ女ナリ、疾劇ス、帝ニ謂フ、願ハクハ外家ヲ驕畜スルコト無ク、后崩ス、帝曰ク、朕復直言ヲ聞カス、七年、帝北巡ス、太子ニ命シ監國トス、張輔交址ヲ討シテ之ヲ破ル、八年、帝自將トシテ鞏、鞏ヲ征シ、大ニ之ヲ難、難河ニ敗ル、遂ニ阿魯臺ヲ征シ、之ヲ敗ル、九年、都御史陳瑛罪ヲ以テ誅セラル、瑛、建文ノ時、燕府ノ金錢ヲ受ケ多、忠良ヲ害ス、是ニ至テ益深刻ヲ務ム、帝始テ其諸不法ヲ聞テ獄ニ下シ死ス、天下快トス、解縉謫セラ

レテ交址ノ右參議トナル、餉ヲ化州ニ督ズルコトアリ、入奏ス、會、帝北征ス、太子ニ謁シテ還ル、高煦漢王言フ、縉上ノ出ルヲ伺ヒ來テ太子ニ覲シテ歸ル、人臣ノ禮ナシト、帝震怒シテ獄ニ下シ、之ヲ殺ス、十年、浙江ノ按察使周新ヲ殺ス、新、御史タリ、敢言シテ避ケス、冷面鍊公ト稱ス、浙江ニ在リテ屢冤獄ヲ雪ク、周廉夫ノ名天下ニ聞ユ、是ニ至リテ誣訴ヲ以テ殺サル、十一年、帝北京ニ如ク、皇太子監國ス、十二年、詔シテ瓦剌ヲ親征ス、皇太孫從フ、大ニ瓦剌ヲ破リテ還ル、太子ノ迎使稍

後ル帝高煦ノ譖ヲ入レ、悉東宮ノ官屬ヲ徵シテ
詔獄ニ下ス、楊士奇、楊溥、金問、皆坐擊セラ十五
年帝北巡ス、十六年、禮部侍郎胡濙ヲ遣リテ江
浙諸郡ヲ巡シ、東宮ノ所行ヲ試觀ス、濙誠敬孝謹
ヲ以テ奏聞ス、帝大ニ悦ス、十八年、皇太子鄒縣
ヲ過ク民ノ艸實ヲ拾フヲ見テ、用井ル所ヲ問フ、
對テ曰ク、歲荒ヲ以テ食トス、太子惻然トシテ曰
ク、民隱上聞セサルカ、山東布政使石執中ニ命シ、
官粟ヲ發シテ之ヲ賑ス、十九年、北京ニ遷都ス、
二十年、帝自將トシテ阿魯台ヲ征ス、夏原吉方

賓諫ムレトモ聽カス、原吉ヲ獄ニ下ス、賓自殺ス、
帝殺胡原ニ至ル、阿魯台遁ル、遂ニ兀良哈ヲ征ス、
二十二年、帝復北征ス、車駕答蘭納木兒河ニ次
ル、彌望惟、荒廬埜艸ニシテ、虜隻影ナシ、終ニ師ヲ
班ス、疾アリ、榆木河ニ至リテ崩ス、太子高熾即位
ス、夏原吉、黃淮等ヲ獄ヨリ釋シ、其官ヲ復ス、蹇義
楊士奇、楊榮、金幼孜ニ圖書各一ヲ賜ス、篆ニ繩愆
糾繆ト曰フ、謂フ政事ノ闕失、人之ヲ言テ朕聽カ
スハ此ノ印ヲ用井テ密疏セヨ、仁宗昭皇帝諱
高熾成祖洪熙元年、法司ニ詔シテ刑ヲ慎マシ

ム囚ハ背ヲ鞭チ、官刑ヲ加フルヲ得ス、謀反ニ非
サルハ連坐スルコト勿ラシム、山東淮徐ノ民食
ニ乏シ、今年租税ノ半ヲ免ス、楊士奇曰ク、請フ戸
工二部ニ與聞セン、帝曰ク、有司國用ノ不足ヲ慮
リテ、必不決ノ意ヲ持セン、民困ヲ救フハ、焚ヲ救
ヒ溺ヲ拯フカ如シ、帝崩ス、太子瞻基卽位ス、宣
宗章皇帝諱ハ瞻基
仁宗ノ子、宣德元年、漢王高煦反ス、帝
親征ス、高煦降ル、廢シテ庶人トス、薛瑄ヲ監察御
史トス、瑄詩賦ニ長ス、周程張朱ノ書ヲ講シ、歎シ
テ曰ク、此道學ノ正脈ナリ、遂ニ其詩賦ヲ焚ク、楊

士奇等一面セント欲ス、瑄曰ク、某糾劾ノ任ノ忝
ス、相識ルノ理ナシ、楊等稱嘆シテ已マス、三年
子祁鎮ヲ立テ、皇太子トス、皇后胡氏ヲ廢シ、貴
妃孫氏ヲ皇后トス、太子ノ母、五年、少保兼太子少傅
戸部尚書夏原吉卒ス、原吉蹇義ト、皆太祖ノ時ニ
家ヲ起シ、義ハ銓政ヲ秉リ、原吉ハ度支ヲ筭ス、皆
二十七年、時ニ蹇夏ト稱ス、十年、帝崩ス、遺詔ス、
國家ノ重事ハ皇太后ニ白シテ行ヘ、太子祁鎮卽
位ス、楊士奇、楊榮、楊溥ニ命シテ臣民ノ章奏ヲ議
セシム、太皇太后三人ニ委任ス、三人心ヲ同クシ

テ政ヲ輔ク、時ニ三楊ト號ス、英宗睿皇帝諱ハ宣宗ノ長子、正統二年、太后太監王振ヲ誅セント欲ス、果サス、振權ヲ擅ニシ、大威福ヲ作ス、一日太后三楊張輔胡濙ヲ願テ帝ニ謂テ曰ク、此ノ五人ハ先朝汝ニ簡貽ス、凡行フ所必與ニ計レト、因テ振ノ不法ヲ責メ之ヲ誅セント欲ス、帝爲ニ跪テ請フ、終ニ果サス、五年、太后張氏崩ス、太后性明敏、女中ノ堯舜ト謂フ、八年、王振侍講劉球ヲ殺ス、振專擅ナリ、球主上ノ親政スヘキヲ論ス、振怒リテ球ヲ獄ニ下ス、球殺サレントス、大呼シテ曰

ク、太祖太宗ノ靈、天ニ在リ、何ソ擅ニ我ヲ殺スヲ得ンヤ、十四年、瓦剌ノ也先等道ヲ分チテ入寇ス、邊報電ノ如シ、王振帝ヲ挾ミテ親征ス、郕王祁鈺ニ命シテ居守セシム、時ニ親征ヲ諫ムル者多シ、振聽カス、大同ニ至リテ始テ師ヲ班シ、土木ニ駐營ス、虜道ヲ分チ入リテ御營ヲ圍ム、帝出ルコトヲ得ス、虜之ヲ擁シテ去ル、振等皆死ス、官軍死傷數十万、英國公張輔尚書廣埜等五十餘人皆死ス、報至ル、京師大ニ震ス、皇太后郕王祁鈺ニ命シテ監國トス、皇長子見深ヲ皇太子トス、王振ノ家

ヲ藉シ、其族ヲ夷ス、于謙ヲ兵部尚書トス、廷臣合辭シテ太后ニ請テ王ヲ立ツ、王始テ卽位ス、遙ニ帝ヲ尊テ太上皇トス、也先京師ヲ犯ス、于謙諸將ヲ統テ擊テ之ヲ却ク、景皇帝諱ハ祁鈺、宣宗ノ次子、英宗ノ弟景泰元年、虜使ヲ遣リ上皇ヲ還スコトヲ議ス、吏部尚書王直等謂フ、宜シク迎復スヘシ、帝懌ハス、于謙曰ク、大位己ニ定ル、但迎復シテ邊患ヲ紓ルノ上皇ヲ迎ヘテ瓦刺ヨリ至ル、帝迎拜シ、相抱テ哭シ、各授受ノ意ヲ述ヘ、推讓良久シ、乃チ上皇ヲ南宮ニ送ル、也先其主脫々不花ヲ弑ス、後阿剌殺之

ス、三年、帝故ノ太子見深ヲ廢シテ、沂王トシ、子見濟ヲ立テ、太子トス、帝儲ヲ易ヘント欲ス、諸大臣ニ啖ハシムルニ金ヲ以テス、皆唯々ス、明年見濟卒ス、六年、大理寺少卿廖莊ヲ謫シ、御史鐘同ヲ杖殺シ、禮部郎中章綸ヲ獄ニ錮ス、見濟殤殂スルヲ以テ、沂王ヲ太子トセンコトヲ請フニ由テナリ、英宗睿皇帝復位、天順元年、帝病アリ、武清侯石亨右都御史徐有貞等兵ヲ以テ上皇ヲ迎ヘテ復位ス、有貞ヲ内閣ニ入レ機務ニ預ラシム、少保兵部尚書于謙ヲ獄ニ下ス、石亨帝ノ病甚シ

キヲ見テ、有貞及太監曹吉祥ト圖リ、夜半南城門ヲ毀テ入り、上皇ヲ輿ニ登セテ出ツ、時ニ百官南城呼噪ノ聲ヲ聞テ色ヲ失フ、有貞號ヒテ曰ク、上皇登極ス、趣ニ入テ賀セヨ、群臣遂ニ賀ス、于謙王丈ヲ誣ルニ外藩ヲ立ルヲ以レテ、獄ニ下ス、法司勘奏ス、跡ノ案スヘキナレ、石亨曰ク、彼意此ノ如シ、鞠スルニ及テ丈力辨ス、謙笑テ曰ク、石亨輩意此ノ如シ、辨スルモ何ク益アラシ、帝謙ノ功アルヲ以テ猶豫ス、有貞曰ク、謙ヲ殺サスハ、此ノ舉名ナレ、乃之ヲ磔ス、也先ノ變ヨリ謙與ニ俱ニ生キ

サルヲ誓フ常ニ直廬ニ宿シ、私第ニ還ラス、藉没セラル、時家餘貲ナレ、天下冤トス、景泰帝ノ廢シ、仍郕王トス、尋テ薨ス、復沂王ヲ太子トス、徐有貞初曹吉祥石亨ニ引用セラル、既ニ志ヲ得テ、自異ニセンコトヲ思ヒ、稍之ヲ裁抑ス、二人不平ナリ、遂ニ有貞ヲ帝ニ間ス、有貞金齒ニ竄セラル、岳正内閣ニ入ル、石曹ノ驕横ヲ論シ、帝ニ裁抑センコトヲ請フ、二人怒テ正ヲ肅州ニ謫ス、陳汝言罪アリ死ス、其家ヲ籍スルニ賊數十萬上嘆シテ曰ク、于謙久シク宦ス、其家他蓄ナレ、今汝言何ソ多

キヤ、是ニ於テ益謙ノ寛ヲ悟リテ、石曹ヲ惡ム、汝
石曹ニ縁テ、石亨不軌ヲ謀リ、伏誅ス、亨其黨ニ謂
テ曰ク、爾能吾ヲ助ケハ、吾官ハ爾カ官ナリ、亨ノ
從子彪大同軍ヲ督シ、罪アリ伏誅ス、亨ノ謀漸覺
ル、獄ニ下リテ死ス、五年、曹吉祥反シ、伏誅ス、亨
既ニ誅セラル、吉祥自安ンセス、帝ヲ幽シテ太子
ヲ立テシコトヲ謀ル、事覺レテ誅セラル、八年、帝
崩ス、太子卽位ス、憲宗純皇帝諱ハ見深、英宗ノ長子、成
化元年、詔レテ少保兵部尚書于謙ノ秩ヲ追復ス、
韃靼延綏ニ寇ス、初韃靼遼東寧夏ヨリ入寇ス、後

阿羅出ト云フ者、屬ヲ率井テ河套ニ潛居ス、古朔
方ノ地ナリ、是ニ至リテ字來小王子ト延綏ヲ抄掠
ス、三年、翰林院編脩章懋、黃仲昭、莊泉、上元燈ヲ
張ルヲ諫テ杖譴セラル、修撰羅倫、李賢カ父ノ喪
ニ起復スルヲ糾スヲ以テ黜ケラル、翰林ノ四諫
ト稱ス、時ニ君臣否隔ス、閣臣彭時、商輅等、面見ヲ
請フ、内使誑キテ曰ク、初見情未孚セス、多言スル
コト勿レト、入リテ見エ唯々シテ萬歲ト呼フノ
ミ、一時傳咲シテ萬歲閣老ト謂フ、八年、程萬里
河套ヲ復セント請フ允サス、十一年、始テ皇子

ヲ召見ス、皇子ハ紀妃ノ生ム所ナリ、萬貴妃ノ妬ムヲ以テ久シク匿ス、是ニ於テ名ヲ祐檜ト定メ、中外ニ頒詔シ、立テ、皇太子トス、十三年、西廠ヲ置ク、太監汪直ヲ以テ之ヲ領シ、民ノ利害官屬ノ賢否ヲ刺ス、直恣肆ニシテ多ク良民ヲ殘害ス、商輅直ノ罪ヲ數メテ之ヲ正サント請フ、兵部尚書項忠モ亦之ヲ劾ス、乃厰ヲ罷ム、未幾クナラスシテ御史戴縉奏シテ之ヲ復ス、遂ニ項忠ヲ斥ケテ民トス、商輅疾ヲ引テ歸ル、十八年、西廠ヲ罷ム、小中官阿丑諛諧ヲ善ス、一日帝前ニ於テ醉者

嫚罵ノ狀ヲ爲ス、人言フ、駕至ルト、嫚スルコト故ノ如シ、又言フ汪太監至ルト、則避走シテ曰ク、今日但汪太監ヲ知ルノミ、帝稍悟ル、直カ罷衰ス、尋テ職ヲ削ル、天下快トス、二十三年、帝崩ス、太子即位ス、萬安罷ラル、安時ニ年七十餘、道ニ在テ猶三台星ヲ看テ復用ラレンコトヲ冀ス、孝宗敬皇帝諱ハ祐樸、憲宗ノ子、弘治元年、前少保兵部尚書于謙ニ加贈シ、肅愍ト謚シ、祠ヲ建ツ、嘉靖中忠肅ト改謚ス、二年、孔鏞ヲ田州知府トス、峒獠城ヲ犯ス、鏞獨一馬ニ乘リテ徑ニ峒ニ入ル、賊露刃シテ出

テ向フ、鏞曰ク、我ハ爾ノ父母官孔太守ナリ、賊曰
ク、豈聖人ノ兒孫カ、皆羅拜シテ牛馬ヲ殺シ、麥飯
ヲ進ム、鏞城ニ歸リ、之ニ錢穀ヲ與フ、賊謝シ去ル、
十四年、劉大夏ヲ兵部尚書トス、帝大夏ニ謂テ
曰ク、今ヨリ凡行フヘク罷ムヘキ者ハ、卿掲帖ヲ
寫シテ密進スヘシ、大夏曰ク、不可ナリ、陛下行フ
所、遠ク帝王ニ法リ、近ク祖宗ニ法リ、外ハ府部ニ
付シ、内ハ内閣ニ咨フテ可ナリ、若掲帖用ヰル日
久クハ、上下俱ニ弊アラシ、帝善ト稱ス、十八年、
戸部主事李夢陽ヲ獄ニ下ス、夢陽上疏シテ貴戚

ヲ指斥ス、皇后及弟張宦齡等之ヲ切齒ス、泣テ帝
ニ訴フ、帝已ムコトヲ得ス、之ヲ獄ニ下ス、旋之ヲ
釋ス、帝崩ス、劉健李東陽謝遷遺詔ヲ受ク、太子厚
照即位ス、武宗毅皇帝諱ハ厚照
孝宗ノ子、正徳元年、劉
瑾ヲ司禮監事トス、瑾ハ東宮ノ舊豎ナリ、馬永成、
高鳳、張永等八黨俱ニ事ヲ用ヰ、日ニ鷹犬歌舞ノ
戲ヲ進ム、戸部尚書韓文戸部郎中李夢陽等八黨
ノ罪ヲ論シ、典刑ヲ正サント請フ、瑾等帝前ニ環
泣シテ曰ク、臣下敢テ上ヲ訕ルハ、司禮監人ナキ
ニ由レハナリ、帝立トコロニ瑾ニ司禮監ヲ掌ラ

レム、是ヨリ大權瑾ニ歸シ勢中外ヲ傾ク、劉健謝遷劉大夏等罷ラレ歸ル、東陽道ニ餞シテ泣下ル、健色ヲ正シクシテ曰ク、何ソ泣クヲセン、當時一語ヲ出サハ、亦同シク歸ルコトヲ得シ、二年、兵部主事王守仁上疏シテ事ヲ論ス、劉瑾怒リテ貴州龍場驛ニ杖謫ス、五年、安化王寘鐸反シ、劉瑾ヲ誅スルヲ名トス、關中大ニ震ス、前都御史楊一清ヲ起シ、之ヲ討セシム、寧夏遊擊仇鉞誘フテ寘鐸ヲ縛ス、賊平ク、劉瑾伏誅ス、張永瑾ト隙アリ、楊一清之ニ説テ、帝ニ請テ瑾ヲ誅セシム、永寘鐸ノ

機ヲ出シ、因テ瑾ノ不法ヲ奏ス、遂ニ瑾ヲ縛シテ市ニ磔ス、家ヲ籍スルニ、金數萬アリ、寶貝算ナレ、怨家爭テ其肉ヲ取リテ之ヲ啖ス、九年、寧王宸濠奏シテ護衛屯田ヲ復センル乞フ、之ヲ許ス、時ニ言官皆其與フ可カラサルヲ論ス、聽カス、十二年、帝微行シテ宣府ニ至ル、時ニ邊將江彬入衛シテ幸セラル、帝ヲ導キテ遠遊ス、十四年、宸濠反ス、都御史王守仁之ヲ討平ス、宸濠久シク異志ヲ蓄ヘ、日夕覬覦ス、朝廷官ヲ遣リテ戒諭シ、其護衛ヲ革ム、宸濠計ヲ決シテ反シ、太后ノ密旨ト稱

レ、朝官孫遂許逵ヲ縛レテ之ヲ斬リ、南昌ニ據リ、
攻テ南康九江ヲ陷レ、直ニ南京ヲ取ラントレ、進
ミテ安慶ヲ圍ム、時ニ守仁福建ニ勘事セントス、
變ヲ聞キテ還リ、吉安知府伍文定ト兵ヲ率井テ
直ニ南昌ニ趨キ、之ヲ破ル、宸濠敗ヲ聞テ急ニ還
ル、官軍之ヲ迎ヘ撃ツ、宸濠敗走ス、萬安知縣王冕
追テ之ヲ執ス、賊黨平ク、帝親征ヲ假リテ南遊セ
ント欲ス、捷至ル、梁儲回鑾ヲ請フ、聽カス、後濠囚
ハレテ通州ノ行在ニ至ル、之ヲ戮ス、十六年、帝
疾アリ、京師ニ還ル、遂ニ崩ス、江彬不軌ヲ謀ル、獄

ニ下レ其家ヲ藉ス、彬伏誅ス、興王厚熜ヲ迎ヘテ
入リテ即位ス、王ハ興獻王ノ子、憲宗ノ孫、孝宗ノ
從子、楊廷和等皇太后ニ啟レテ、之ヲ立ツ、詔シテ
興獻王ヲ崇奉スル典禮ヲ議ス、禮部尚書毛澄等
孝宗ヲ皇考トシ、興獻王ヲ皇叔父ト稱セント議
ス、進士張璁謂フ、子ニシテ父ヲ臣トスル義ナレ、
孝宗ニ繼嗣シテ自其親ヲ絶ツハ不可ナリ、帝喜
ヒテ之ニ從ム、シトス、楊廷和不可ヲ持ス、竟ニ孝
宗ヲ皇考、慈聖太后ヲ聖母ト曰フ、興獻帝后ヲ本
生皇考、本生聖母ト稱ス、後張璁ノ議ヲ執リ、孝宗

ヲ皇伯考ト改メ、孝宗ノ后ヲ皇伯母ト改メ、興獻
王ヲ皇考ト曰ヒ、母ヲ聖母ト曰フ、世宗肅皇帝
諱ハ厚、憲宗ノ次子興獻王ノ子、武宗ノ從弟、
嘉靖元年、王守仁ヲ封シテ新建伯トス、八年、兵部尚書王守仁卒ス、守
仁南贛ヲ巡撫ス、斷藤峽ノ猺賊ヲ平ク、是ニ至リテ
病篤シ、骸骨ヲ乞テ歸ベ、桂萼等其命ヲ俟クスシ
テ職守ヲ離ル、リテ効シ、詔シテ世襲ヲ停メ、卹典俱
ニ予ヘス、守仁ハ餘姚ノ人、陽明山人ト號ス、其學
良知ヲ致スヲ主トス、二十一年、大學士夏言罷
メラル、嚴嵩ヲ以テ代ス、嵩一意上ニ媚ヒ、權ヲ竊ミ

利ヲ罔ス、帝微ニ之ヲ覺ル、復言ヲ閣ニ入ル、嵩又
之ヲ譖ス、言遂ニ罷メラル、二十七年、總督侍郎
曾銑ヲ殺ス、銑前ニ河套ヲ復スルヲ請ヒ、塞ヲ繕
メ、敵ヲ破ル、嚴嵩其揣ニ邊釁ヲ開クヲ効シ、斬ニ
處ス、并ニ夏言カ銑ノ金ヲ納ル、ヲ誣ヒテ、之ヲ
殺ス、二十八年、俺答宣府ニ寇ス、大同、總兵周尚
文之ヲ擊破ス、倭浙東ニ寇ス、二十九年、俺答大
同ヲ犯ス、總兵張達林椿戰死ス、遂ニ大舉シテ來
リテ都城ニ薄ル、總兵仇鸞等兵ヲ率、井テ至ル、虜
焚掠シテ去ル、鸞之ヲ尾ス、兵潰ユ、死傷千餘人、仇

驚ニ京營ノ戎政ヲ總督セシム、驚各邊ノ兵ヲ選
ヒ、更番入衛ス、塞上警アルモ主將徵集スルコト
ヲ得ス、邊事益壞ル、三十年、馬市ヲ大同宣府ニ
開ク、仇鸞虜ニ結ヒ貢馬互市ス、兵部員外郎楊繼
盛其害ヲ論シテ、狄道典史ニ貶セラル、後帝其疏
皆驗アルヲ思ヒ、其官ヲ復ス、三十一年仇鸞死
ス、人其虜ニ通シ賄ヲ納ル、ノ狀ヲ發ス、詔シテ
其屍ヲ戮ス、三十二年俺答大舉シテ大同ニ入
寇ス、總兵李淶戰死ス、明年又宣大ヲ犯ス、總督楊
博力ヲ悉シテ之ヲ禦ク、乃遁ル、三十四年、趙文

華ヲ遣リテ海防ヲ督促ス、文華寵ヲ恃ミテ恣睢
ナリ、財賂填集ス、江南爲ニ困弊シ、倭勢愈熾ナリ、
張經倭ヲ王江涇ニ破ル、文華其功ヲ攘シ、經ヲ劾
ス、嚴嵩中ヨリ之ヲ構ヘテ經ヲ殺ス、天下冤トス、
楊繼盛嵩ノ十罪五姦ヲ疏上ス、帝怒リテ之ヲ殺
ス、趙文華倭寇息ムト稱シテ還ル、還ル比、警報日
ニ至ル、帝其言ノ不實ナルヲ疑フ、且其貨ヲ黷シ
功ヲ要ムルノ狀ヲ聞キ、遂ニ黜ケテ民トシ、子懌
思ヲ邊ニ戍ス、四十一年、嚴嵩罪アリテ免ス、其
子世蕃ヲ獄ニ下ス、嵩ノ欺罔漸見ル、帝悅ハス、御

史鄒應龍嵩父子ノ不法ヲ極論ス、遂ニ嵩ヲ罷ム、
世蕃雷州ニ戍ス、倭ト交通スルヲ以テ棄市ス、
四十五年、戸部主事海瑞ヲ獄ニ下ス、瑞上言ス、陛
下初年遠ク漢文ニ過ク、二十年來法紀漸弛、修
齋設醮シテ長生ヲ求ム、陛下陶仲文ニ師事シ、仲
文己ニ死ス、彼其身ヲ保ツコト能ハス、陛下何ソ
獨之ヲ求ムル、帝怒リテ疏ヲ投ツ已ニシテ復取テ
讀ム、太息シテ自悔シ、帝丹藥ヲ服シ疾テ崩ス、裕
王載堉即位ス、穆宗莊皇帝諱ハ載堉、世宗ノ子、隆慶元
年、高拱陳以勤ヲ文淵閣大學士トシ、張居正ヲ東

閣大學士トス、四年、俺答ヲ順義王ニ封ス、俺答
ノ孫把漢那吉内附ス、指揮使ヲ授ケテ遣リ歸ス、
俺答報謝ス、故ニ是ノ命アリ、六年帝疾テ崩ス、
太子翊鈞即位ス、年十歲、高拱ヲ罷ム、張居正遂ニ首
輔ク、神宗顯皇帝諱ハ翊鈞、穆宗ノ太子、萬歷元年、男
子王大臣内使ト偽稱シ、乾清宮ニ入テ獲ラル、總
兵戚繼光ヨリ來ルト曰フ、張居正陰ニ之ニ囑シ、
高閣老ニ係スト曰ハシム、緹騎己ニ拱ノ里第ヲ
圍ム、楊博等之ヲ力解シ、居正ニ謂テ曰ク、主使ヲ
高閣老ト稱セハ、恐ラクハ萬代ノ惡名、公ニ歸セ

正居正秦シテ其獄ヲ緩ス、帝錦衣都督朱希孝ニ
之ヲ訊鞠セシム、大臣大呼レテ曰ク、我何ニ由テ
高閣老ヲ知ラン、希孝懼レテ敢テ鞠セス、高拱白
スルコトヲ得タリ、遂ニ大臣ヲ斬ル、五年、張居
正父ノ喪ニ起復ス、編脩吳仲行檢討趙用賢等交
章シテ之ヲ争フ、皆杖戍ニ坐ス、十年、中極殿大
學士張居正卒ス、居正相トナリ、主權ヲ尊クシ、名
實ヲ覈ス、然レトモ法ヲ持スルコト嚴ニシテ自
任ス、人亦怨ム者多シ、十三年、海瑞ヲ南京左都
御史トス、瑞諸御史ヲ約束スルコト嚴峻ナリ、大

僚ヨリ丞郎ニ至ルマテ、凜々トシテ法ヲ奉セサ
ルハナシ、雨花牛首ノ燕頓ニ絶ス、十九年、申時
行罷メラル、前ニ時行皇長子ヲ注視シ、奏シテ云
ス、皇上此美玉アリ、何ソ早ク琢磨ヲ加ヘサル是
ニ至リテ閣臣儲ヲ定ムルヲ請フ、首ニ時行ノ名
ヲ列ス、時行帝ノ怒ルヲ聞キ、密疏シテ言フ、臣方
ニ告ニ在リ實ハ與リ知ラス、羅大紘等之ヲ劾ス
遂ニ時行ヲ罷ム、後王錫爵儲ヲ建テンコトヲ請
フ、帝皇后年少ヲ以テ二三年ヲ待ツヲ命ス、唯閣
ヲ出テ、講學ス、二十二年、吏部郎中顧憲成藉

ヲ削ラル、憲成文選ヲ主ル、多ク政府ト牴牾ス、遂ニ帝ニ忤フ、藉ヲ削ラレテ歸リ、學ヲ東林書院ニ講ス、海内景附シ、時政ヲ諷議ス、東林黨議ノ始トス、二十四年、中官ヲ遣リテ礦ヲ開ク、是ヨリ稅使ヲ増設シ、至ル所奸民ヲ爪牙トシ、搜括シテ醵盡ニ及ス、民生ヲ聊シセス、變亂遂起ス、二十九年、子常洛ヲ立テ、太子トス、三十一年、妖書ヲ獲タリ、謂フ鄭皇妃太子ヲ搖カサントスト、帝大ニ怒リ、太子ニ諭シテ曰ク、恐ル、コト勿ク、此逆惡我父子兄弟ヲ離間シ、天下ヲ動搖スルノミ、三

十六年、邊備ヲ飭フ、初、愛新覺羅奴兒哈赤、滿州ニ起リ、尼堪外蘭ヲ征シ、圖倫城ニ克テ、勢漸盛ナリ、蒙古喀爾喀諸部悉之ニ歸ス、是ニ於テ邊ニ備ス、四十二年、福王常洵鄭妃子國ニ之ク、太子ヲ搖サントスル者アルヲ以テ、閣臣葉向高請フテ藩ニ就カシム、向高相位ニ居リ、每事執爭ス、其言多ク格シテ行レス、遂ニ去ル、四十三年、男子張差挺ヲ持シテ、東宮ニ入り、執ハル、事內監劉成、龐保ニ連ル、皆鄭妃ノ近侍ナリ、妃哀ヲ太子ニ乞フ、太子謂フ、速ニ風顛人ヲ決スヘシ、遂ニ差ヲ市ニ磔ス、

四十六年、奴兒哈赤ノ兵撫順及清河堡ヲ陷ル、
全遼震動ス、兵部尚書楊鎬ヲ以テ遼東ヲ經略セ
シム、奴兒哈赤前ニ滿州ニ即位ス、天命ト建元ス、四十七年、楊鎬師ヲ
帥井テ塞ヲ出ツ、總兵馬林杜松李如栢劉綎分レ
テ四路ニ出ツ、松伏ニ遇テ戰没ス、林遁ル、綎モ亦
戰死ス、敗聞至ル、京師大ニ震ス、鎬ヲ獄ニ下ス、熊
廷弼ニ命シ遼東ヲ經略セシム、廷弼濠ヲ濬シ塘
ヲ繕メ、守禦ノ計ヲ爲ス、法嚴ニ令行ハル、四十
八年、帝崩ス、太子即位ス、光宗皇帝諱ハ常洛、神宗ノ長子、
天下ノ礦稅及監稅ノ中官ヲ罷シ、帝疾アリテ、崔

文昇李可灼ノ藥ヲ服ス、遂ニ崩ス、御史楊漣等請
フテ選侍李氏ヲ熾鸞宮ニ移ス、皇長子由校即位
ス、熹宗愍皇帝諱ハ由校、光宗ノ長子、天啓元年、是歲、奴兒哈赤
ニ遷陽ニ遷都ス、明年其東ニ遷ル、東京ト名ツク、奴兒哈赤ノ兵瀋陽遼陽
ヲ取ル、經略袁應泰巡撫張銓等之ニ死ス、太監魏
進忠詔ヲ矯メテ司禮太監王安ヲ殺ス、安大臣劉
一燝韓爌等ト心ヲ同クス、進忠其正ヲ持スルヲ
忌ミ、帝ノ乳母客氏ト謀リテ安ヲ殺ス、進忠字ヲ
知ラス、王體乾李永貞ヲ以テ心腹トス、帝政事ヲ
厭フ、進忠因テ威福ヲ擅ニスルコトヲ得タリ、

二年、奴兒哈赤、兵西平堡ヲ陷ル、經略熊廷弼持
重ヲ主トス、巡撫王化貞進戰ヲ主トス、經巡和
ス、滿兵河ヲ渡ル、化貞廣寧ヲ棄テ、走ル、廷弼モ
亦引テ山海關ニ入ル、三年、顧秉謙魏廣微ヲ東
閣大學士トス、魏忠賢進忠名ヲ改ムニ諂附スレハナリ、
忠賢客氏ト私ス、宮中ノ其罪惡ヲ白スルヲ恐レ
テ、光宗ノ選侍趙氏ヲ殺シ、裕妃張氏ヲ幽殺ス、
四年、工部郎中萬燦ヲ杖殺ス、時ニ左副都御史楊
漣及魏大中陳良訓等七十餘人、忠賢ノ罪狀ヲ抗
疏ス、燦ノ疏最後ニ上ル、最痛切ナリ、忠賢旨ヲ矯

メテ之ヲ杖殺ス、五年、楊漣左光斗魏大中袁化
中周瑞顧大章魏客ヲ論スルヲ以テ逮レテ獄ニ
下タル之ヲ殺ス、越南星等ノ藉ヲ削ル、天下ノ講學
書院ヲ毀ツ、東林黨人ノ姓名ヲ榜レテ天下ニ示
ス、六年、是歲愛新覺羅奴兒哈赤卒ス、是ヲ清ノ太祖トス、子皇太極立ツ、是ヲ太宗トス
前ノ左都御史高攀龍等ヲ逮ス、攀龍之ヲ知リ、楊
龜山ノ祠ニ謁レテ歸リ、二門生一弟ト後園ノ池
上ニ飲シ、遺表ヲ書シ、衣冠シテ自池ニ沈ム、浙江
巡撫潘汝楨請フテ魏忠賢ノ生祠ヲ西湖ニ建ツ、
諂附スル者亦爭テ祠ヲ各處ニ建ツ、七年、魏忠

清史稿

卷四

文部省

文部省

賢ヲ國子監ニ祠リ、孔子ニ配ス、帝崩ス、弟信王由
檢卽位ス、魏忠賢崔呈秀及容氏等伏誅ス、莊烈
愍皇帝諱ハ由檢
熹宗ノ弟崇禎元年、海寇鄭芝龍降ル、福
建巡撫熊文燦善ク之ヲ遇ス、芝龍先後大寇ヲ擊
破シテ、海氛漸息ム、陝西饑ユ、流賊王二王嘉允等
城堡ヲ攻メ、官吏ヲ殺ス、高迎祥闖王ト自稱ス、饑
民之ニ應ス、後張獻忠等又起ル、闖賊獻賊ト稱ス、
二年、滿州ノ皇太極遵化ヲ攻陷ス、山海關ノ總
兵趙率教等戰死ス、滿兵燕京ニ薄ル、京師大ニ震
フ、三年前、督帥袁崇煥ヲ殺ス、崇煥將畧アリ、滿

兵ヲ拒キテ功アリ、帝滿ノ間言ヲ信シテ、其和ヲ
議シ、敵ヲ引クカト疑ヒ、遂ニ執ヘテ之ヲ殺ス、
四年、副將曹文詔河曲ノ賊王嘉允ヲ敗シ、滿兵太
凌城ヲ圍ム、祖大壽之ニ降ル、登州、游擊孔有德反
シ、山東ノ州縣ヲ陷ル、遂ニ滿州ニ降ル、五年、曹
文詔等連ニ賊ヲ平涼、慶陽ニ敗ル、六年、流賊饑
南河北ヲ犯ス、總兵倪寵王樸ヲ遣リテ曹文詔等
ト合勦シテ屢之ヲ敗シ、滿兵旅順ヲ陷ル、流賊河
ヲ渡リ、澠池諸縣ヲ陷ル、分レテ南陽、汝寧ヲ掠メ、
遂ニ湖廣ヲ犯ス、賊始、陝西ニ起ル、高迎祥最強シ、

米脂ノ以李自成屬ス、河ヲ渡ルニ及ヒテ、自成始
テ別ニ一軍タリ、七年、皇太極上方堡ニ入り、宣
府ニ至ル、京師戒嚴ス、高迎祥、張獻忠、李自成、陝西
ヨリ分レテ河北、江北、湖廣ヲ犯ス、洪承疇ニ命レ
關ヲ出テ、急ニ之ヲ勦セシム、八年、是歲滿州國號ヲ建
ト曰ス、洪承疇關ヲ出ツ、賊河南、兵盛ナルヲ見テ、
復奔リテ陝西ニ還ル、曹文詔、真寧ノ湫頭鎮ニ戰
ヒ、伏ニ遇フテ死ス、九年、陝西ノ巡撫孫傳庭、賊
高迎祥ヲ盤屋ニ擊ツテ之ヲ禽ス、京師ニ送リテ
伏誅ス、賊黨乃共ニ李自成ヲ推シテ闖王トス、

十一年、清兵塞ニ入ル、京師戒嚴ス、張獻忠、左良玉
ニ敗ラレ、降ヲ乞フ、總理軍務熊文燦之ヲ受ク、良
玉其詐ヲ知リテ急ニ之ヲ擊ク、ト請フ、文燦聽
カス、洪承疇大ニ李自成ヲ潼關ニ破ル、自成妻女
俱ニ失ス、數騎ヲ從ヘテ商洛ニ遁ク、殆ト困蹙ス、
而シテ熊文燦檄シテ兵ヲ止ム、承疇等又皆入衛
セントシテ北行ス、賊遂ニ制スヘカラス、十二
年、總兵左良玉、賊馬進忠ヲ鎮平關ニ敗ル、張獻忠
復叛ス、十三年、張獻忠、羅汝才ト合ス、官軍夔州
ニ敗績ス、十四年、李自成河南ヲ陷ク、福王常洵

ヲ殺ス、自成其血ヲ勺シ、鹿肉ニ雜ヘテ食ス、福祿
酒ト曰フ、王府ヲ火シ金ヲ散シ饑民ヲ賑ス、張獻
忠襄陽ヲ陷レ、襄王翊銘ヲ殺ス、清ノ兵錦州ヲ圍
ム、洪承疇之ヲ援フ、左良玉張獻忠ヲ信陽ニ敗ル、
獻忠走リテ李自成ニ依ル、李自成南陽ヲ陷レ、唐
王聿錡ヲ殺ス、總兵猛如虎之ニ死ス、十五年、陝
西、總督汪喬年ノ軍襄城ニ潰エ執ハル、賊ヲ罵リ
テ死ス、賊復開封ヲ圍ムコト急ナリ、左良玉張獻
忠ヲ勦スルヲ藉口シ赴キ援ケス、清ノ兵松山ニ
克ツ、洪承疇降ル、遂ニ錦州ヲ陷ル、左良玉ノ兵朱

仙鎮ニ潰ユ、諸鎮皆潰ユ、李自成河ヲ決シ開封ニ
灌ク、城遂ニ陷ル、時ニ河南郡邑殘破ス、朝廷復官
ヲ設ケス、遺黎寨ヲ結テ自保ス、禍亂是ニ於テ極
ル、清ノ兵薊ニ入ル、畿南山東ノ州縣ヲ連下ス、閣
臣周廷儒請テ師ヲ視ル、通州ニ駐リ、幕客ト飲酒
娛樂シ、日ニ章ヲ馳セテ捷ヲ奏ス、明年罪ヲ以テ
死ヲ賜フ、十六年、是歲清ノ太宗皇太極卒ス、世祖福臨即位ス、李自成
承天ヲ陷ル、尋テ羅汝才ヲ襲殺シ、其衆ヲ并セ、襄
陽ヲ改メテ襄京ト曰ヒ、新順王ト僭號ス、張獻忠
武昌及湖南諸郡ヲ陷ル、李自成潼關ヲ破リ、遂ニ

西安延安諸郡ヲ陷ル、十七年、清順治元年、李自成西安ニ僭號シ、國ヲ順ト號ス、永貞ト改元ス、張獻忠成都ヲ陷ル、遂ニ四川ヲ奄有ス、尋テ蜀中ニ病死ス、李自成寧武關ヲ陷ル、總兵周遇吉力戰レテ之ニ死ス、督師李建泰南遷センコトヲ請フ、帝曰ク、國君社稷ニ死ス、朕將何ニ往ン、自成居庸關ヲ犯ス、中官杜勲前ニ賊ニ降ル、縋レテ城ニ入り、帝ニ勸メテ自計ヲナサシム、帝叱レテ之ヲ出ス、勲守城ノ諸璫ニ謂テ曰ク、吾輩富貴固ヨリ在リ、李自成京師ヲ陷ル、帝萬歲山ニ崩ス、外城將ニ陷ラン

トス帝先、長公主ヲ殺シ、皇后ニ自盡セシム、翌日、内城陷ル、帝萬歲山ニ登リ、衣襟ニ書レテ曰ク、朕涼德藐躬、上天咎ヲ下タセリ、然レトモ皆諸臣朕ヲ誤ルナリ、面目ノ祖宗ニ見ルコトナレト、帛ヲ以テ山亭ニ縊ル、太監王承恩從死ス、大學士范景文尚書倪元璐等數十人之ニ死ス、宮人水ニ赴キ死スル者二百餘人、賊先帝ヲ田貴妃ノ墓ニ藁葬ス、清ノ兵李自成ヲ山海關ニ破ル、遼東總兵吳三桂降ヲ清ニ請ヒ共ニ賊ヲ討ス、清ノ大軍關ニ入り、奮撃シテ大ニ賊ヲ破ル、自成走ル、遂ニ太子ニ

漢書卷一百一十五

卷一百一十五

文選卷一百一十五

王ヲ挾ミテ西ス、三桂之ヲ逐フ、自成山西ヲ棄テ、西安ニ走ル、清三桂ヲ西平王ニ封ス、清ノ兵京師ニ入ル、令ヲ下シ百姓ヲ安輯シ、崇禎帝后及熹宗ノ懿安后ヲ禮葬ス、清都ヲ燕京ニ定ム、福王由松南京ニ立ツ、兵部尚書史可法、戸部尚書高弘圖、鳳陽ノ總督馬士英ヲ内閣トス、可法請テ師ヲ江北ニ督ス、士英因リテ國ヲ專ニス、清ノ攝政睿親王多爾袞書ヲ可法ニ致シ、其號ヲ擁シ尊ヲ稱スルヲ詰責ス、可法答書レテ曰ク、國破レ君亡ス、宗社ヲ重シトシ、今上ヲ迎立レテ中外ノ心ヲ繫

ク、願ハクハ同仇ノ誼ヲ堅シ、共ニ闖賊ヲ討平セシ、清英親王阿濟格ニ命レテ流寇ヲ征シ、豫親王多鐸ニ命レテ江南ニ下シ、帝禁中ニ深居シ、宴遊惟事トス、宮殿ヲ修建シ、婦女ヲ漁シ、國用殆盡ク、馬士英國政ヲ濁亂シ、邊警日ニ偏ル、識者己ニ旦夕ニ堪ヘサルヲ知レリ、帝由松福王常洵ノ子、神宗ノ孫弘光元年、許定國前鋒總兵高傑ヲ殺ス、傑河ニ浴ヒ、牆ヲ築キ、力ヲ備禦ニ揣ニス、定國ト力ヲ合セント欲シ、銀幣ヲ睢州ニ遺ル、定國詐リテ傑ヲ享シ、殺シテ以テ清ニ奔ル、寧南侯左良玉兵ヲ舉ケ

テ東シ、馬士英阮大鍼ノ國ヲ亂スコトヲ効ス、士英大ニ懼ヒ、北寇ヲ捨テ、專之ニ備ス、清ノ兵淮ヲ渡ル、無人ノ境ニ入ルカ如シ、清ノ兵楊州ヲ攻ム、史可法カメ禦キ、血奏シテ救ヲ請フ、報セス、城遂ニ陷ル、可法之ニ死ス、清ノ兵江南ニ及フ、總兵鄭鴻逵遁ル、帝出奔ス、馬士英太后ヲ奉レテ浙ニ走ル、清ノ豫親王京ニ入ル、劉澤清遁ル、劉良佐降リ、豫親王ノ命ヲ受ケテ帝ニ追ヒ及ヒ、遂ニ挾ミ去ル、豫親王帝ヲ江寧ニ囚フ、張肯堂黃道周吳春枝鄭芝龍等議シテ唐王聿錫ヲ福州ニ立ツ、芝龍

幼ニレテ海ニ習フ、海盜ハ皆其故盟門下、是ニ於テ兵餉戰守ノ機宜專芝龍ニ譟ス、芝龍ノ子森風儀整秀、倜儻大志アリ、帝見テ之ヲ奇トシ、姓朱ヲ賜ヒ、成功ト改名ス、清ノ兵李自成ヲ進ミ攻ム、自成辰州ニ走リ、羅公山ニ據ル、勢亦蹙ル、數十騎ト走リ、食ヲ村落ニ求ム、村民共ニ之ヲ擊殺ス、魯王紹興ニ監國タリ、馬士英弘光帝ノ母妃ヲ奉レテ至ル、張國維士英カ國ヲ悞ル十大罪ヲ疏參ス、士英懼レテ敢テ入ラス、方逢年國維ト大學士タリ、國維師ヲ江上ニ督ス、清薙髮ノ令ヲ頒ツ、帝聿

漢書

卷四

四

漢書

卷四

劉太祖ノ後、南陽ニ封セラレ、唐王トナル 隆武元年朱成功ヲ忠孝

伯ニ封ス、鄭芝龍權勢朝ニ振フ、成功帝ノ愁坐ス

ルヲ見テ泣テ奏レテ曰ク、陛下鬱々トシテ樂マ

ス、臣ノ父異志アルヲ以テスルニ非スヤ、臣國ノ

厚恩ヲ受ク、義反顧セス、死ヲ以テ陛下ヲ扞カン、

黃道周兵ヲ徽州ニ出ス、清ノ兵擒レテ江寧ニ送

ル、清南京ヲ江南府ト改ム、應天ヲ江寧府トス、尋テ斬ラル、清ノ江南招

撫使洪承疇等鄭芝龍ト同里ナリ、芝龍密ニ通款

ス、海寇ニ備ルニ託シ、拜表レテ去ル、清ノ兵浙ニ

逼ル、方國安走リテ紹興ニ至リ、魯王ヲ劫レテ南

行ス、江上ノ兵俱ニ潰ニ、國安馬士英魯王ヲ執ヘ

テ清ニ降ルヲ計ル、王脫レテ海ニ入ル、張國維衣

冠ヲ具ヘ、南向再拜レテ曰ク、臣力竭キタリ、從容

トレテ園池ニ沈ミテ死ス、馬士英遁レテ僧トナ

ル、隨テ獲ラル、阮大鍼等俱ニ迎降ス、尋テ俱ニ斬

戮セラル、帝鄭芝龍ノ去ルヨリ計ヲ定テ贛州ニ

幸セントス、清ノ兵已ニ劔津ニ及フト聞キ、倉皇

トシテ出奔ス、何吾騶郭維經朱繼祚等從フ、清ノ

兵踵テ至ル、貝勒博洛帝及后ヲ執ヘテ之ヲ斬ル、

鄭芝龍安平ニ在リ、戰艦ヲ備ヘテ兩端ヲ持ス、博

漢書
卷一百一十五

卷一百一十五

漢書
卷一百一十五

洛書ヲ以テ之ヲ招ク、芝龍謂フ閩廣總督ハ失ハ
スト、乃降ル、成功諫ムレトモ聽カス、博洛遂ニ芝
龍ヲ挾ミテ北ス、成功悲歌慷慨シ、著ル所ノ儒服
ヲ携ヘテ文廟ニ赴キテ之ヲ焚キ、先師ニ拜辭シ、
陳輝施琅等九十餘人ト海ニ入リ、兵ヲ南澳ニ收
ム、張肯堂沈猶龍舟山ニ往キテ魯王ニ依ル、兩廣
總督丁魁楚廣西巡撫瞿式耜ト會議シ、永明王由
榔ヲ肇慶ニ立ツ、隆武帝ノ弟唐王聿錡亦廣東ニ
監國タリ、清ノ將李成棟廣ヲ攻メ、唐王ヲ擒斬ス、
帝梧州ニ走ル、帝由榔桂王ノ子、神宗ノ嫡孫永曆元年

李成棟肇慶ヲ陷シ、梧州ニ入ル、帝桂林ニ抵ル、瞿
式耜守禦ヲ勅シテ楚蜀各鎮ニ告ク、朱成功師ヲ
提ケテ南澳ヨリ歸リテ、鼓浪嶼ニ泊ス、鄭彩鄭聯
踞ル所ノ厦門浯州ト對峙ス、郡邑大ニ震シ、清ノ
兵瓊州ヲ陷ル、帝桂林ヲ出テ全州ニ奔ル、又武崗
ニ奔ル、瞿式耜之ヲ争ヘトモ聽カス、式耜桂林ニ
留リ、焦璉ト危城ヲ守リ、清ノ兵ト接戦ス、清ノ兵
隨テ去ル、式耜士卒ヲ撫循シ、士卒樂ミテ命ヲ用
井ル、璉モ亦桂人ノ心ヲ得タリ、式耜國士ヲ以テ
遇ス、故ニ獨其カヲ得タリ、帝復桂林ニ入ル、尋テ兵

漢書

卷四

卷四

卷四

變アリ、倉皇トシテ之ヲ避ク、式耜止ムルコト能
ハス、既ニシテ李成棟金聲桓歸降ス、帝肇慶ニ入
ル、三年、清ノ兵湘潭及南昌ヲ破ル、何騰蛟李成
棟等之ニ死ス、四年、帝梧州ニ移ル、朱成功潮州
ニ入ル、兩島ニ據リテ鄭聯ノ軍ヲ并ス、海上ノ軍
皆屬ス、清ノ攝政王多爾袞卒ス、清帝政ヲ親ラス、
清ノ兵全州ニ薄ル、張同敞瞿式耜ニ謂テ曰ク、事
迫レリ、式耜曰ク、封疆ノ臣、封疆アルヲ知ルノミ、
身安ニカ往ク、共ニ飲訣ス、其明執ハル、清ノ定南
王孔有徳之ヲ別所ニ幽ス、遂ニ害セラレ、清ノ將

馬得功厦門ヲ攻陷ス、鄭鴻逵揭陽ヲ棄テ、島ニ
回リ、得功ヲ攻メ圍ム、得功計ヲ以テ逸去ス、朱成
功平海ヨリ至リ、失律ノ罪ヲ按シ、鄭芝莞ヲ殺ス、
諸將驚慄ス、成功漳浦海徵ヲ攻ム、清ノ將多ク降
ル、六年、朱成功長泰ヲ攻ム、清ノ將王進吾將甘
輝ト北溪ニ遇ス、兩馬相當リ、雌雄久シク決セス、
既ニシテ兩家ノ兵至リ、乃解ク、清ノ多羅貝勒屯
齊張獻忠ノ餘孽孫可望ヲ宗慶ニ破ル、後可望清
ニ降ル、七年、清ノ兵海徵ヲ圍ム、朱成功之ヲ防
ク、清ノ兵遁ル、十二年、帝雲南ニ在リ、朱成功ヲ

延平郡王ニ晋メ、甘輝ヲ崇明伯トス。清ノ將多尼
吳三桂、卓布泰、三道ヨリ雲南ニ入ル。白文選、李定
國皆破ル。帝永昌ニ奔ル。三桂追撃ス。帝騰越ニ奔
ル。十三年、朱成功、焦山ニ至ル。諸將ニ謂テ曰ク、
瓜鎮ハ金陵ノ門戸、先之ヲ破ルヘシト。自軍ヲ督
シテ進ム。提督甘輝、翁天祐等直ニ瓜州ヲ擣ク。清
ノ將朱衣祚、左雲龍等會戦ス。我將周全斌、雲龍ヲ
斬ル。衣祚城ニ奔ル。我將士門ヲ奪テ入り、清ノ兵
ヲ搜殺シテ、皆盡ク。遂ニ進ミテ蕪湖ヲ取リ、銀山
ニ壘ス。甘輝曰ク、瓜鎮ハ南北ノ咽喉ナリ。此ニ座

鎮シテ瓜州ヲ斷タハ、南都ハ勞セス。レテ定マラン。
成功聽カス。進ミテ金陵ヲ取ラントス。舟觀音門
ニ至リ、將士ヲ分屯ス。甘輝曰ク、彼ハ衆ク我ハ寡
シ。其未定ラサルヲ撃タハ、拔ケン。若、彼集リ禦固
クハ、君必之ヲ悔イン。成功聽カス。清ノ將梁化鳳
我將余新ヲ襲フテ之ヲ禽ス。清ノ兵前後來リ攻
ム。成功敗走ス。甘輝止リ戦フ。馬蹢テ獲ラル。屈セ
ス。レテ之ニ死ス。成功曰ク、吾、甘輝ノ言ニ從ハ、
此ニ及ハス。十五年、帝緬甸ニ在リ。朱成功江南
喪敗ヨリ地蹙リ、軍孤ナリ。帝ノ存亡知ル可カラ

漢書卷一百一十五

卷一百一十五

文部省

ス、臺灣ヲ取テ之ニ遷ラント議ス、臺灣ハ鄭芝龍
嘗テ之ニ居ル、去リテ後荷蘭人來リ據ル、成功遂
ニ戰艦ヲ率ヰテ鹿耳門ニ到ル、紅夷大ニ驚キ、退
キテ王城ヲ保ス、成功荷蘭ニ告テ曰ク、此地ハ先
人ノ故物ナリ、珍瑤ハ悉ク還與セン、地ハ我ニ還
ヘセ、荷蘭乃降ル、土酋皆約束ヲ受ク、臺灣ヲ改メ
テ安平鎮トス、清主福臨殂ス、是ヲ世祖トス第三子玄燁
立ツ、生レテ八年、内大臣索尼、蘇克薩哈、遏必隆、鰲
拜、遺詔ヲ受ケテ政ヲ輔ク、明年ヲ改メテ康熙元
年トス、十六年、延平郡王朱成功、臺灣ニ卒ス、三

十子經島ヨリ臺ニ入ル、清ノ將吳三桂、愛星河前
年、緬ニ入ル、李定國奔リテ病死ス、白文選遁ル、清
ノ兵之ヲ追フ、文選降ル、清軍緬城ヲ陷ル、緬酋帝
ヲ執ヘテ清ニ降ル、

清紀

姓ハ愛親覺羅氏、燕ニ都ス、

聖祖仁皇帝

諱ハ玄燁、世祖ノ第三子、

康熙二年

永曆帝祖ス、朱經猶朔ヲ

奉レ永曆ト称ス、

耿繼茂、李率泰、兵ヲ統ヘテ浯嶼、金門ヲ

取ル、三年、張煌言ヲ浙海ニ擒ス、六年、帝政ヲ

親ラス、内大臣蘇克薩哈罪アリ、絞ニ處ス、十二
年、講官ニ諭シテ曰ク、治人アリ、治法ナレ、人ヲ觀

ルハ必心術ヲ先ニス、心術不善ナレハ才學アル
モ何ソ用ヰ、平西王吳三桂雲南四川貴州ニ據
テ反ス、都統業赫ヲ安西將軍トシ、將士ヲ率ヰテ
蜀ニ赴カレム、十三年、吳三桂ノ兵沅州ヲ陷ル、
澧州長沙皆降ル、刑部尚書莫洛ヲ大學士トシ、陝
西ヲ經略ス、靖南王耿精忠反ス、賴塔ヲ平西將軍
トシ、兵ヲ統ベテ杭州ニ赴キ精忠ヲ討センム、潮
州總兵劉進忠精忠ニ降ル、寧南靖寇大將軍順承
王勒爾錦大軍ヲ率ヰテ雲貴ヲ平ム、都司姚世熙
副都統鄂申、陳世凱、護軍桑遏等耿ノ兵ヲ衢州金

華撫州等ノ處ニ敗ル、和碩親王喇布ヲ率テ滿兵
ヲ率ヰテ江寧ニ往キ、江南全省ヲ保固セシム、廣
西提督馬雄等反シテ賊ニ降ル、廣全省變動ス、安
親王岳樂兵ヲ率ヰテ之ヲ討シ、先ニ業赫等復ス
ル所ノ七盤朝天ノ諸關復賊ニ奪ハル、蜀中水陸
皆賊ニシテ糧道梗塞ス、貝勒董額莫洛等ニ諭シ
テ廣元ニ回ラシム、陝西提督王輔臣ノ兵寧羗ヲ
亂ル、莫洛害セラハ、董額退キテ漢中ヲ保ツ、十
四年、甘肅提督張勇ヲ靖逆將軍トシ、王輔臣ヲ討
セシム、耿精忠使ヲ遣ハシ朱經ト和ス、先ニ耿鄭

經ノ將劉國軒潮州ニ入り、大ニ平南王尚可喜ヲ
敗ル、十五年、大學士圖海ヲ撫遠大將軍トシ、王
輔臣ヲ征ス、董額以下俱ニ制ヲ受ク、圖海輔臣ヲ
招諭シテ之ヲ降ス、尚之信可喜陰ニ吳逆ニ通シ
亂ヲ作ス、總督金光祖、巡撫佟養鉅、陳洪明亦俱ニ
賊ニ降シ、康親王傅貝子兵ヲ率ヰテ取精忠ノ將
馬九玉ヲ衢州ニ破ル、耿繼美城ヲ以テ降ル、精忠
大軍前ニ在リ、鄭兵後ニ偏ルヲ以テ窘蹙シテ降
ヲ乞フ、王師福州ニ至ル、精忠城ヲ出テ降シ、尚可
喜軍ニ卒ス、尚之信先ニ廣東ヲ以テ降ル、平南王

ニ襲王ス、吳三桂ノ將胡國柱等韶州ヲ侵ス、將軍
莽依圖、額楚等夾撃シテ之ヲ破ル、侍講張侯中書
高士奇ヲ書房ニ入レテ顧問ニ備フ、十七年、吳
三桂驍騎ヲ悉シテ廣西ヲ犯ス、莽依圖、額楚、傅宏
烈兵ヲ合セテ之ヲ討ス、依圖之ト平樂ニ戰テ利
ヲ失ヒ、退テ中山鎮ヲ保ス、朱經海徵ヲ陷ル、我將
希福陣亡ス、穆赫林、段應舉俱ニ自縊ス、吳三桂永
興ヲ犯ス、我將宜利布、哈克山等戰死ス、三桂衆ヲ
率ヰテ郴州ヲ攻ム、碩岱敗走ス、朱經ノ兵惠安ヲ
陷シ、吳三桂病死ス、其將馬寶、胡國柱、三桂ノ孫世

璠ヲ雲南ニ迎フ、十八年、貝勒察尼等吳應麒ヲ
擊テ岳州ヲ復ス、簡親王將ヲ遣リテ衡州ヲ取ル、
吳國貴夏國相皆遁ル、遂ニ永州ヲ克復ス、察尼ニ
詔レ順承王ト會議シテ、雲貴ヲ進取セシム、將軍
林興等武岡城ヲ拔ク、吳國貴袍ニ中リテ死ス、王
進寶漢中府ヲ復ス、趙良棟陽平關ヲ復ス、良棟綿
竹ニ至ル、汪文元張文德等迎降ス、遂ニ成都ヲ復
ス、蓬廣安等ノ諸州縣相繼テ定ル、遂ニ夔州ヲ復
ス、達州東鄉等悉定ル、穆占黃衛國等吳應麒ヲ敗
リテ、沅州靖州及黎平府ヲ復ス、尚之信既ニ降ル、

其不法ヲ告ル者アリ、其弟之節等黨與ヲ糾シ王
國棟ヲ誘殺シ亂ヲ爲サントス、將軍賴塔兵ヲ率
井テ之ヲ擒ス、之信ニ死ヲ賜ヒ、之節等悉ク法ヲ
正ス、安親王順承王康親王等ノ師旋ル、章泰穆占、
蔡毓榮等、吳世璠ノ衆ヲ鎮遠ニ敗リ進ミテ平越
ヲ復ス、世璠及劉國柄吳應麒等夜遁ル、水師提督
萬正色朱經ノ兩島ヲ拔ク、經復臺灣ニ入ル、明年
卒ス、二十年、章泰等新興普安ノ二城ヲ復ス、師
雲南ニ至ル、世璠胡國柄ヲ遣リテ拒戦ス、官兵大
ニ之ヲ敗リ、國柄ヲ斬ル、大兵進ミテ城ヲ圍ム、世

璠城ニ嬰リテ死守ス、旣ニレテ胡國桂兵敗レ、馬
寶等伏誅スルヲ以テ、力竭キテ自殺ス、餘黨悉降
リ、雲南平ク、施琅ヲ福建水師提督トシ、進ミテ澎
湖臺灣ヲ取ル、二十二年、施琅海寇ヲ平ク、琅彭
湖ヨリ進ミテ臺灣ニ入ル、鄭ノ宿將劉國軒拒戰
シテ敗レ、朱經ノ子克塽ヲ奉シテ迎降ス、之ヲ燕
京ニ歸クル、琅ヲ靖海侯ニ封ス、二十四年、雅克薩
城ヲ恢復ス、羅刹雅克薩ニ盤踞シ、我通逃ヲ收メ
侵掠ヲ事トス、都統公彭春等ニ命シ、水陸兵ヲ分
チテ之ヲ攻ム、羅刹城守ス、頭目等勢困ミ降ヲ乞

ヒ、逃入ヲ收回ス、議シテ墨爾根ニ城ク、將軍薩布
素等駐札ス、黑龍江ニ副都統ヲ置ク、二十五年、
詔シテ大ニ遺書ヲ求ム、侍郎孫在豐ニ命シ、海口
ヲ開濬スル事ヲ督修セシム、後靳輔ヲ河道總督
トス、羅刹復雅克薩ニ城ク、薩布素往キテ之ヲ攻
ム、二十六年、羅刹和ヲ請フ、薩布素ニ命シ、雅克
薩ノ圍ヲ解テ、黑龍江墨爾根ニ還ラシム、二十
七年、喀爾喀及ヒ土謝圖汗胡土克圖等所屬ヲ率井
テ邊ニ入リテ降ヲ乞フ、噶爾丹ニ逼マラルヲ以
テナリ、二十八年、羅刹ノ邊界ヲ定メ、碑ヲ立ツ、

二十九年、噶爾丹、烏朱穆秦ノ地ニ深入ス、裕親王福全ヲ撫遠大將軍トシ、古北口ニ出テシム、康親王傑書恭親王常寧等、師ヲ帥井テ之ニ會ス、噶爾丹遁ル、仍テ大兵ヲ派シテ之ニ備フ、噶爾丹遁レテ汎界ヲ出テ、具疏シテ謝罪ス、三十年、邊外蒙古ヲ巡察シ、喀爾喀ノ七旗ト四十九旗等ヲ編立ス、三十二年、羅刹察漢十使ヲ遣リテ進貢ス、帝曰ク、羅刹京師ヲ距ルコト甚遠シ、朝貢ハ盛事ト雖、恐クハ後世因リテ事端ヲ生セン、當ニ中國ノ元氣ヲ培養スヘシ、三十五年、厄魯特噶爾丹

復、及ス、克魯倫河ニ沿フテ下リ、喀爾喀ヲ掠メ、遂ニ巴顏烏蘭ニ据ル、我兵三路ヨリ進剿ス、帝親大兵ヲ統ヘテ中路ヨリ進ム、噶爾丹大ニ驚キ、廬帳器械ヲ棄テ、逃去ス、侍衛大臣馬思喀ニ命シ、兵ヲ領シテ追剿ス、噶爾丹ノ衆降ル者多シ、乃チ噶爾丹ニ來降ヲ諭ス、帝宮ニ還ル、三十六年、復噶爾丹ヲ親征シ、寧夏ニ駐蹕ス、噶爾丹窮蹙シ、藥ヲ飲テ自盡ス、四十七年、皇太子允初淫亂ナルヲ以テ之ヲ廢ス、既ニシテ兄允禔ノ咒咀ニ因テ病ヲ發スルヲ知リ、允禔ノ爵ヲ削リテ、復允初ヲ太子

トス、後狂疾除カサルヲ 四十九年、天下ノ錢糧ヲ
通免ス、五十四年、厄魯特ノ策妄阿拉布坦、哈密
ヲ侵ス、遊擊潘至善等之ヲ擊破ス、五十六年、富
寧安ヲ靖逆將軍トシ、策妄阿拉布坦ノ邊界烏魯
木齊吐魯蕃ヲ襲ハシム、又準噶爾ヲ襲ハシム、詔
シテ天主教ヲ禁ス、策妄阿拉布坦ノ兵西藏ヲ侵
ス、侍衛色楞總督額倫特ヲシテ青海王台吉ニ會
シテ、進擊セシム、未至ラス、藏酋拉藏汗賊ニ殺サ
ル、五十七年、額倫特色楞等賊ヲ喀喇烏蘇ニ破
ル、既ニシテ賊大ニ至ル、額倫特軍ニ没ス、皇子允

禔ヲ撫遠大將軍トシ、重兵ヲ率井テ西寧ニ駐ス、
五十九年、平逆將軍延信ヲ遣リテ青海ヨリ定
海將軍噶爾弼打箭爐ヨリ、兩路藏地ヲ收復セシ
ム、傅爾丹、富寧安、祁里德等モ、亦西北路ヨリ襲撃
ス、富寧安吐魯蕃ニ至リ、番衆千餘ヲ降ス、祁里德
傅爾丹モ亦厄魯特ノ衆數千ヲ降ス、六十年、延
信噶爾弼敵地ニ深入シ、大ニ策妄阿拉布坦ノ兵
ヲ敗ル、西藏大小ノ頭目俱ニ歡迎シテ、準葛爾ノ
喇麻百餘人ヲ擒獻ス、西藏平定ス、六十一年、帝
北巡シテ熱河ニ駐蹕ス、病アリ還ル、子允禎ヲ召

シ立テ、太子トス、遂ニ崩ス、太子卽位ス、世宗
憲皇帝諱ハ允禩、聖祖ノ第四子、雍正元年、青海王羅卜藏丹
津叛ス、塔爾寺ノ大喇嘛ヲ誘煽シ己ニ從ハシム、
遠近風靡ス、川陝總督年羹堯ヲ撫遠大將軍トシ、
西寧ニ駐シ、四川提督岳鍾琪ヲ奮威將軍トシテ
之ヲ討ス、浙閩各省天主教ヲ禁ス、二年、岳鍾琪
黨賊喇嘛ヲ西寧ノ東北郭隆寺ニ攻メテ之ニ克
ツ、其十七寨及廬舍七十餘所ヲ燬ク、餘賊逃散ス、
鍾琪丹津カ據ル所ノ巢ヲ擣ダント欲シ、精兵ヲ以
テ其營ヲ斫ル、賊倉皇トシテ大ニ潰ユ、丹津逃逸

シ、策妄阿拉布坦ニ投ス、其母及弟妹ヲ俘ニス、羹
堯ヲ一等公ニ、鍾琪ヲ三等公ニ封ス、帝使ヲ準葛
爾ニ遣ハシ、羅卜藏丹津ヲ索ム、詔ヲ奉セス、唯邊
界ヲ定メテ敢テ入犯セサルヲ約ス、多羅敦親王允
祿口外ニ奉使シ、敢テ往カスシテ、張家口ニ駐ル
罪ヲ以テ其爵ヲ褫ヒ、京師ニ拘禁ス、貝子允禔西
寧ニ住シ、邊地ニ肆行シ、其人心ヲ黨結スルヲ以
テ貝子ヲ褫フ、三年、川陝總督年羹堯ヲ降シ、岳
鍾琪ヲ以テ之ニ代フ、其久シク遠地ニ居リ、兵ヲ
擁シ欺罔悖亂ノ跡アルヲ以テナリ、又議政大臣

熒堯ノ九十二大罪ヲ劾奏ス、罪狀昭著ナリ、其前功アルヲ以テ特ニ自裁ヲ賜フ、其家ヲ藉ス、銀五十萬、多羅郡王允禩ヲ降シテ固山貝子トス、其前ニ大將軍ニ任シ、妄爲侵擾兵民俱ニ苦ムヲ以テナリ、廉親王允禩狂悖已ニ極リ、允禩蘇努吳爾占等黨ヲ結ヒ逆ヲ構フルヲ以テ、其宗藉ヲ除ク、允禩允禩尋テ病死ス、雲貴ノ督鄂爾泰黔省ノ猗苗ヲ剿降シ、田三萬餘畝ヲ查出ス、五年、岳鍾琪總兵趙儒ヲ遣リテ晃山ノ賊蠻ヲ討ス、番臣首逆余格阿祖ヲ擒ニシテ降シ、黎平、知府張廣泗花苗ヲ

攻破ス、六年、田文鏡ヲ河東ノ總督トス、文鏡公正廉明ニシテ忠誠國ニ體ス、帝曰ク、各省ノ督撫文鏡鄂爾泰カ如クナラハ、天下大ニ治ラシ、鄂爾泰ヲ雲貴廣西ノ總督トシ、兗苗ノ肆横ヲ鎮ス、七年、準葛爾ヲ征ス、前年策妄阿拉布坦死ス、子葛爾丹策零立ツ、凶狡其父ニ過ク、屢邊ヲ侵ス、是ニ於テ傅爾丹ヲ靖遠大將軍トシ、岳鍾期ヲ寧遠大將軍トシ、西北兩路ヨリ出テ、準葛爾ヲ征ス、九年、傅爾丹ノ兵和通泊ニ敗績ス、爾丹勇ニシテ謀寡シ、賊ノ詐謀ヲ信シテ輕進ス、賊ノ伏兵四起

シ、島ニ乗レテ來リ突ク、遂ニ我前鋒ヲ和通泊ニ
圍ム、矢雨ノ如ク下ル、爾丹往テ援ク、我兵潰ユ、部
將多ク戰死ス、岳鍾琪烏魯木齊ヲ襲フテ遙ニ聲
援セントス、亦大ニ獲ルコト能ハス、傳爾丹ヲ降
レテ振武將軍トシ、順承王錫保ヲ以テ之ニ代フ、
馬爾塞ヲ撫遠將軍トシ、歸化城ニ屯ス、賊既ニ志
ヲ得テ益猖獗ナリ、大小策零精騎ヲ率井テ深入
ス、我兵與ニ戰テ之ヲ敗ル、賊始テ去ル、十年、岳
鍾琪ヲ罷メ、鄂爾泰ヲ督巡陝甘經略軍務トス、張
廣泗ヲ護寧遠大將軍トス、噶爾丹策零大舉シテ

入寇シ、額駙策凌ノ所部ニ至リ、其子女生畜ヲ掠
ム、策凌方ニ入朝セントシ、中途ニ之ヲ聞キ、斷髮
シテ天ニ誓ヒ、反リ救フ、夜半間道ヨリ山後ニ出
テ、黎明山頂ヨリ大呼シテ下ル、賊大ニ驚亂シ、倉
猝シテ皆遁ル、策凌追フテ喀喇森齊泊ノ險ニ及
ブ、賊走路ナシ、我兵奮擊ス、賊尸山谷ニ滿ツ、賊鄂
爾昆ヨリ竄去ス、策凌急ニ馬爾賽ニ檄シ、邀擊セ
シム、爾賽答ヘス、部將爭フテ兵ヲ出サント請フ、
亦許サス、賊城下ヨリ過ク、紛トシテ行列ナシ、將
士稟命セスシテ出テ、擊ツ、噶爾丹己ニ過ク、僅

ニ其零騎ヲ截ルノミ、詔シテ馬爾賽ヲ斬ル、是ヨ
リ噶爾丹勢衰ス、尋テ來テ和ヲ議ス、十一年、貴
州提督哈元生台拱ノ九股苗ヲ征ス、先ニ鄂爾泰
古州清江ノ苗ヲ招撫ス、未、台拱ニ及ハス、是ニ至
リテ叛ス、元生等ノ官兵六路ヨリ進ミテ賊ヲ破
ル、十三年、哈元生ヲ楊威將軍トシ、湖廣提督董
芳之ニ副タリ、董哈議合ハス、大兵雲集シ數月曠
久ス、故ニ賊復、四出焚掠ス、十四年、帝崩ス、太子
弘歷第四子寶親王、即位ス、莊親王允祿果親王允禮大學士鄂
爾泰張廷玉政ヲ輔ク、高宗純皇帝諱弘歷、世宗第四子

乾隆元年、湖廣總督張廣泗師ヲ帥、井テ苗疆ヲ
平ク、前年苗亂、剿撫和セス、乃張廣泗ヲ經略使ト
シ、董芳哈元生等ノ罪ヲ治ム、廣泗大兵ヲ三路ニ
分チテ、九股清江等ノ各寨ヲ攻ム、向ノ所皆捷ツ、
逆苗盡、牛皮大ノ箐ニ竄ス、諸軍箐口ヲ扼ヒ、坐ナ
カラ之ヲ困ス、苗飢餓シテ厓谷ニ顛隕ヒ、或ハ俘
馘セラル、是ヨリ南夷復、反セス、五年、湖南靖州
武岡ノ猺苗等、廣西ノ猺ト反ス、總督班第總兵劉
策之ヲ剿ス、張廣泗軍務ヲ節制ス、斬馘算ナシ、
十一年、金川、安撫司莎羅奔、舊土司澤旺ヲ劫カシ

テ歸ル、總督檄諭シ始テ澤旺ヲ故地ニ還ス、雍正沙羅
奔ヲ安撫使トスルヨリ、自大金川ト十二年、沙
羅奔又革布什札、及明正ノ土司ヲ攻ム、張廣泗ニ
命シ四川ヲ調督シ、進ミテ澤旺カ美諾ノ官寨ニ
屯ス、其弟良爾吉ヲ以テ從征ス、十三年、大學士
訥親ニ命シテ金川ノ師ヲ視セシメ、故將軍岳鍾
琪ヲ提督トシテ軍ニ赴カシム、廣泗訥親ヲ輕シ
シ將相和セス、良爾吉廣泗ノ軍中ニ在リテ、我動
息輒賊ニ報ス、賊險ニ據リ我兵進ムコト能ハス、
喇底山ヲ攻ムルニ方リテ、十數賊噪キ下ル、我兵

皆潰ユ、帝張廣泗訥親ヲ罷斥シ、大學士傅恒ニ命
シ往キテ經略セシム、恒至リ、良爾吉ヲ斬リ、賊ノ
内應ヲ斷テ、隣省ノ兵ヲ增調シ、進剿ヲ期ス、軍聲
大ニ振ル、沙羅奔等懼レテ降ヲ乞フ、遂ニ兵ヲ罷
ム、十五年、藏王朱爾墨特那木札爾反ス、駐藏大
臣傅清拉布散之ヲ誅ス、是ヨリ國事敎主達賴喇
嘛及班禪ニ歸ス、十九年、準葛爾ノ輝特ノ台吉
阿睦撒納來降ス、初噶爾丹策零死ス、其子策妄多
爾濟那木札爾位ヲ嗣テ昏暴ナリ、其女兒之ヲ殺
シ、其庶兄喇嘛達爾札ヲ立ツ、達爾札其近屬達瓦

齊ヲ忌ム阿睦撒納性狡猾ナリ達瓦齊ト兵ヲ合
セ伊犁ニ入リテ達爾札ヲ弑ス達瓦齊自立シテ
汗トナル阿睦撒納之ヲ襲ハントスレトモ力敵
セズ是ニ於テ來降シ我兵ニ藉リテ達瓦齊ニ代
ラント欲ス帝之ヲ納レ以テ前驅トシテ殘孽ヲ
迅掃セントス二十年班第ヲ定北將軍トシ永
常ヲ定西將軍トシ阿睦撒納等之ニ副タリ兩路
ヨリ兵ヲ帥井テ準ニ向ス準夷跪迎シテ敢テ抗
セズ達瓦齊格登山ニ遁ル我兵之ヲ追フ達瓦齊
回疆ニ竄ス回首縛レテ之ヲ獻ス阿睦撒納隱ニ

汗ヲ以テ自處ル厄魯特ノ四部ヲ總統セント欲
シ得サルヲ以テ遂ニ反ス伊犁ノ宰桑又奮起ス
班第等其兵ニ圍マレテ死ス永常木壘ニ駐シ賊
ヲ恐レテ巴里坤ニ回ル改テ策楞ヲ定西將軍ト
シ富德玉保達爾黨阿ヲ參贊トシ巴里坤ヨリ兵
ヲ進ム二十一年玉保特克勒ニ至ル阿逆ヲ擒
ニシテ來獻スト詐報スル者アリ玉保策楞皆之
ヲ信シ駐リ待ツ阿逆聞テ得テ逸去ス策楞玉保
ヲ罷メテ達爾黨阿富德ヲ之ニ代ヘ兆惠ヲ定邊
右副將軍トシ赴キ援久達爾黨阿追テ哈薩克ニ

到ル、阿逆亦遁ル、時ニ我遲疑シテ屢軍機ヲ失フ
ヲ以テ、諸降夷皆輕侮ス、且喀爾喀撤臺ノ事アリ、
北路ノ郵驛、本、喀ノ各部役ニ應ス、用兵以來、軍報
絡繹、郡王青衮雜ト之ヲ苦ミ、其臺ヲ撤ス、諸
降夷皆亂ル、兆惠變ヲ聞キテ濟爾哈朗河ヨリ轉
戦シテ南ス、二十二年、兆惠烏魯木齊ニ至ル、諸
賊皆會ス、我兵能戰ス、然ルニ軍雪淖中ヲ步行シ、
履韞完タカラス、駝馬食ヒ盡ク、特給格ニ至リ、乃
營ヲ結ヒテ固守ス、會、圖倫楚兵ヲ以テ至ル、賊ノ
圍始テ解ク、將軍成袞札布及兆惠ニ命シ、西北二
路ニ分レ賊ヲ剿ス、會、諸部内亂アリ、兆惠ニ長驅

セラレ、賊皆敗走ス、阿逆俄羅斯ニ走ル、尋テ痘ヲ
患ヘテ死ス、二十三年、兆惠富德厄魯特ノ遺孽
ヲ搜剔シ、悉ク斬戮ヲ加ス、此ヲ厄魯特ノ一大劫ト
謂フ、回首布那敦霍集占反ス、布那敦大和卓木ト
號シ、霍集占小和卓木ト號ス、兄弟ナリ、霍集占凶
狡ニシテ兄ヲ勸メテ反セシム、回戸皆靡從ス、是ニ
於テ雅爾哈善ヲ靖逆將軍トシ、其據ル所ノ庫車
城ヲ攻メシム、二酋遁ル、小和卓木葉爾羌ニ奔リ、
大和卓木喀什噶爾ニ奔ル、復兆惠ニ命シ葉爾羌
ヲ攻メシム、兆惠兵少シ、城ヲ圍ムコト能ハス、且

水冲、處ヲ擇ヒテ營ス、卽所謂黑水營ナリ、兆惠城南棋盤山ノ賊ノ畜牲ヲ取ラントス、河ヲ渡リテ橋斷ツ、賊騎來リ截ル、我兵奮ヒテ其陣ヲ突ク歩賊萬餘後ヨリ夾攻ス、我兵且戰ヒ且退ク、總兵高天喜等戰沒ス、日暮營ニ還ル、賊來リ攻ム、兆惠善ク拒ク、二十四年、富德黑水圍、急ナリト聞テ兵ヲ率井テ赴キ援ク、賊ニ遇ヒ、且戰ヒ且前ム、旣ニシテ諸援兵會ス、賊大敗シテ城ニ入ル、我兵合シ勢益盛ナリ、遂ニ兩路ヨリ師ヲ進ム、兆惠喀什噶爾ニ往ク、二首先遁ヒ、伊西洱庫河ノ險ヲ守ル、

富德山上ヨリ烏槍ヲ以テ俯射ス、且大呼シテ回衆ヲ招降ス、山ヲ下リテ降ル者聲雷ノ如シ、巴達克山ノ酋二酋ヲ擒ニシテ來獻ス、回部平ク、二十九年、回疆烏什亂ル、伊犁ノ將軍明瑞等討シテ之ヲ平ク、三十年、孟良ノ酋緬甸ノ賊ヲ糾シ、車里土司ヲ内犯ス、普洱永昌邊外數驚ク、是ニ於テ大學士楊應琚滇ニ來リテ、永昌ニ移駐ス、緬取ル可シト言フ者アリ、遂ニ副將趙宏榜ヲ遣リテ其新街ヲ襲取ス、緬賊數萬衆ヲ率井來テ之ヲ爭ス、趙宏榜全軍皆沒ス、賊虎踞關ニ薄ル、提督李時昇

諸將ニ檄シテ之ヲ禦ク、賊始テ退ク、我師進ミテ
木邦ニ據ル、時ニ暑天瘴癘方ニ興ル、賊俄ニ至ル、
我師潰エテ歸ル、明瑞ニ命シ將軍ヲ以テ雲貴ノ
總督ヲ兼ネ、大舉シテ進剿ス、明ハ錫箔路ヨリ、參
贊額爾登額ハ猛密ヨリシテ、兩路阿瓦ニ會ス、明
瑞錫箔ニ至リ先其蠻結ヲ攻ム、賊柵中ヨリ鳥槍
ヲ發ス、我將觀音保、哈國興等、三路山上ヨリ下リ
攻ム、賊盡遁ル、進ミテ象孔ニ至ル、迷テ道ヲ失フ、
賊來リ追フ、明瑞觀音保等更、殿シ猛籠ニ至ル、
三十三年、明瑞等大山ニ道シ、木邦ニ向ヒテ歸ラ

ントス、賊復追躡ス我兵ヲ蠻化山ニ伏セテ、大ニ
賊ヲ敗ル、明瑞得ル所ノ牛馬ヲ以テ軍士ヲ犒ス、
行テ小猛育ニ抵ル、賊已ニ蝟集ス、我營ヲ環リテ
皆賊ナリ、而ルニ額爾登額ノ援至ラス、明瑞將士
ト血戦シ、將士多ク死ス、明瑞數傷ヲ負テ樹下ニ
縊ル、事聞ス、額爾登額ヲ京ニ磔ス、三十四年、大學士
傅恒ヲ經略トシ、阿桂、阿里衮ヲ副將軍トシ、明德
ヲ總督、哈國興ヲ提督トシテ、緬ヲ征ス、師永昌騰
越ニ至リ、戛鳩江ヲ渡リテ西ス、阿桂、蠻暮ニ在リテ、
造ル所ノ船艦成ル、經略ヲ迎ヘテ金沙江ニ出ツ、

賊已ニ江口ヲ扼シ、水陸來リ犯ス、阿桂阿里衮陸軍ヲ將井、哈國興舟師ヲ率井テ、矢銃並ヒ發シ、騎兵又旁ヨリ衝入ス、賊衆大ニ潰ニ、殺溺數千人諸軍進ミテ老官屯ヲ攻メ、其水路ヲ絶ツ、賊始テ困ミ來テ和ヲ乞フ、時ニ兵瘡ニ染ムヲ以テ、議レテ師ヲ班ス、三十六年金川復反ス大學士溫福尚書桂林ヲ遣リテ之ヲ討ス、三十七年桂林墨壟溝ニ入り、賊ニ後路ヲ截テ、一軍皆没ス、阿桂ヲ擢キテ桂林ニ代フ、僧格桑澤旺竄レテ金川ニ入ル、我兵三路入進ス、三十八年賊我木果木ノ營

ヲ斫ル、將軍溫福害セラハ、我士卒陣亡スル者三千餘人、是ニ於テ阿桂ヲ定西將軍トシ、豐昇額明亮ヲ副トシ、南西兩路ヨリ入りテ、盡ク小金川ヲ復ス、三十九年阿桂豐昇額等險ヲ冒レテ進ミ攻メ、諸碉寨ヲ破リテ、直ニ遜克宗ニ臨ム、遜克宗ハ賊巢勒烏圍ノ外障タリ、賊震懼シ僧格桑ヲ殺シ、其尸及妻妾併ニ頭目ヲ獻シテ赦ヲ乞フ、阿桂之ヲ京ニ檻致シ、攻ルコト益急ナリ、賊死守ス、我兵先墨格山ヲ取ル、勒烏圍ヲ距ルコト二十餘里、明亮南路ヲ攻ム、險ニシテ進ムコト能ハス、乃轉

レテ宜喜ヨリ入ル、七碉ヲ破リ、遂ニ大軍ト東西
河ヲ隔ツルニ至ル。四十年阿桂郎噶寨ヲ拔キ
テ、遂ニ勒烏圍ニ抵ル、其官寨堅厚、東西山河絶險
碉ヲ立テ、之ヲ守ル、我兵先其南ヲ破ル、明亮河
西ヲ攻ム、俱ニ其援ヲ絶ツ、遂ニ官寨ヲ礮撃シテ
之ヲ破リ、又轉經樓ニ克ツ、莎羅奔兄弟等噶爾崖
ニ遁ル、我師進ミテ瑪爾古山ヲ奪フ、噶爾崖其下
ニ在リ、西師明亮富德等亦諸險ヲ奪ヒ三路ノ軍
皆會ス、是ニ於テ長圍ヲ築キ、大礮ヲ以テ晝夜霆
撃ス、索諾木莎羅奔ノ兄ノ子郎卡死窘急ナリ、莎

羅奔及頭目番衆等ト寨ヲ出テ、降ル、是歲安徽
ノ劉松白蓮教ヲ唱ヘ、治病持齋ヲ名トス、捕ヘテ
甘肅ニ戍ス、其黨劉之協宋之清等教ヲ傳ヘテ川
陝湖北ニ徧シ、遂ニ不靖ヲ謀リ、王發生ヲ明裔朱
姓ト詭リ、流俗ヲ煽動ス、五十八年ニ至リテ捕獲
セラル、劉之協遁ル、四十六年暹羅海ヲ航シ來
貢ス、西寧循化廳ノ回馬明心亂ヲ作ス、初撤拉爾
ノ黑帽回墨克回經ヲ奉ス、老教ト號ス、馬明心更
ニ新教ヲ唱ヘ、黨ヲ聚メテ老教百餘ヲ殺ス、知蘭
州府楊士機等之ヲ捕ヘントシテ害セラル、總督

勒爾謹兵ヲ以テ明心ヲ捕フ、賊黨起リテ徑ニ蘭
州ヲ犯ス、阿桂海蘭察等ニ命シ、往キテ剿セシム、
海蘭察賊ヲ龍尾山ニ擊ツ、進ミテ華林山ノ巢穴
ヲ圍ム、大雨ニ乗シ土ヲ囊ニシ濠ヲ填メテ四入
シ、遂ニ首逆ヲ斬ル、餘賊華林寺ヲ火ス、一人ノ降
ル者ナシ、賊平久、四十八年馬明心ノ餘黨伏羌
縣ノ阿渾田五等復亂ヲ作ス、福康安海蘭察ニ命
シ會計ス、阿桂モ亦往ク、先攻テ靜寧ノ山柵ヲ奪
フ、餘黨盡、石峰堡ニ據ル、從テ之ヲ圍ム、賊圍ヲ突
テ遁レント欲ス、伏ニ遇フト多ク死ス、我兵遂ニ

之ニ克ツ、五十一年臺灣亂ル、臺ノ彰化縣ノ林
爽文凶徒ヲ嘯聚シテ我捕剿ノ兵營ヲ攻ム、我軍
盡沒ス、賊勢ニ乘シ彰化ヲ陷ル、又諸羅ヲ陷ル、鳳
山縣ノ莊大田又起リテ縣城ヲ陷ル、閩中變ヲ聞
テ提督等ノ兵至ル、五十二年總兵柴大紀諸羅
ヲ復ス、廣ノ兵及將軍恒瑞等各兵ヲ率井テ府城
鹿港ニ赴ク、林文爽必諸羅ヲ陷レントス、我援兵
皆賊ニ截ラレ、諸羅益急ナリ、帝陝督福康安内大
臣海蘭察ヲシテ來ラシム、十餘萬衆直ニ鹿港ヲ
指ス、風順ヲ得テ忽海口ニ抵ル、檣竿櫛列ス、賊見

テ始テ懼ル、海蘭察等ノ兵矢ヲ發テ十餘賊ヲ殪
ス、賊卽披靡ス、海蘭察笑テ曰ク、此一群犬ノミ、何
ソ畏ルニ足ン、乃兵ヲ麾キテ入ル、遂ニ嘉義ノ諸羅
名ニ抵ル、城中ノ官民飢羸シテ人色ナシ、賊遂ニ
其巢大里杙ニ遁レ歸ル、官兵之ヲ攻ム、賊殺死算
ナシ、林爽文遁レテ集口埔ニ據ル、官兵又之ヲ攻
ム、賊兵遂ニ潰ユ、爽文ヲ獲タリ、尋テ又莊大田ヲ
得タリ、五十三年、安南亂ル、初安南ノ權臣鄭阮
ニ氏相抗ス、阮惠鄭ヲ滅シテ富春ニ治シ、其將阮
任ヲ遣リテ國都ヲ攻ム、王黎維祁出亡ス、任遂ニ

之ニ據ル、阮惠任ヲ誅シ玉宮ヲ燬ク、維祁ノ族皆
遁ル、帝師ヲ出シテ罪ヲ問フ、兩廣ノ總督孫士毅
等三路ヨリ兵ヲ進ム、賊風ヲ望テ瓦解ス、遂ニ維
祁ヲ冊封シテ王トス、阮惠遁ル、五十四年、阮惠
ノ兵大ニ至ル、孫士毅軍中ニ置酒ス、倉卒ニシニ
禦クコト能ハス、走リテ江ヲ渡リ橋ヲ斷ツ、我南
岸ノ軍萬餘、提督許世亨總兵張朝龍等皆溺死ス、
士毅ノ職ヲ褫ヒ、福康安ヲ以テ之ニ代フ、阮惠禍
ヲ賈フコト大ナルヲ知リ、又暹羅ノ其後ヲ襲ハ
ンコトヲ恐ヒ、關ヲ敲キテ罪ヲ謝ス、帝黎氏ノ終

ニ存立スルコト能ハサルヲ度リ、乃阮惠ヲ釋ス
 維祁ヲ旗ニ編シ京師ニ安置ス、五十六年、嘉勇
 公福康安超勇公海蘭察川督惠齡ヲ遣リテ廓爾
 喀ヲ征ス、西藏王班禪、部下ノ人丹津班珠爾罪
 アリ、廓爾喀ノ酋喇特納巴都爾ニ結ヒテ、藏地ヲ
 侵擾ス、班禪等急ヲ告ク、遂ニ之ヲ征ス、五十七
 年、福康安青海ヨリ進ミテ藏地ヲ復シ、遂ニ賊境
 ニ入ル、康安海蘭察ト兵ヲ分ケテ、噶多普ノ賊營
 ヲ衝ク、賊走ル、遂ニ其國都陽布ニ逼ル、賊險ニ據
 リテ堅守ス、官兵多ク死傷ス、會、其南隣披楞陰ニ

其邊ニ偏ル、賊洵懼シ計窮ル、乃丹津班珠爾ノ屍
 ヲ歸送シテ降ヲ乞ヒ貢獻ス、乃師ヲ班ス、六十
 年、貴州銅仁府ノ苗亂ル、初、永綏廳苗巢中ニ懸ル、
 諸苗ノ地漸占シテ民地トナル、是ニ於テ苗客民
 ヲ逐フト相殺ス、石柳鄧其黨ヲ妖煽シ、群苗蜂起
 ス、遂ニ永綏ヲ圍ム、雲貴總督福康安四川總督和
 琳ニ詔シ、兵ヲ合シテ之ヲ剿セシム、諸圍從テ解
 ク、而ルニ吳八月平壠ニ據リ吳王ト號ス、石三保
 石柳鄧皆之ニ附ク、官兵奮勵進剿シ、鴨堡ヲ圍ム、
 賊巢平壠ヲ距ルコト漸近シ、吳隴登ト曰フ者吳

八月ヲ擒獻シ自效ス、八月ノ子廷禮廷義服セス、隴登ト相仇殺ス、是歲帝内禪ス、太子卽位ス、仁宗皇帝諱ハ永琰ハ嘉慶元年、大學士福康安軍ニ卒ス、郡王ヲ和琳乾州ヲ復ス、尋テ軍ニ卒ス、一等公額贈ル、勒登保ヲシテ平壠ヲ攻メシム、平壠陷ル、石柳鄧及吳廷義等ヲ斬ル、湖北荆襄達州等ノ白蓮教匪亂ヲ作ス、湖廣總督畢沅湖北巡撫惠齡西安將軍恒瑞等ニ命シテ之ヲ剿ス、襄陽ノ賊姚之富教首齊林ノ妻王氏竹山保康ヲ陷ル、擾シテ四川ニ及フ、都統永保侍衛舒亮鄂輝ニ命シテ會剿セシム、

陝甘總督宜綿提督慶成鄖陽ノ賊ヲ破リテ之ヲ殲ス、四川督福寧龍山ノ賊ヲ破ル、降ル者ヲ坑ニス、時ニ湖北ノ賊勢漸蹙ル、而ルニ四川達州ノ奸民徐天德太平東鄉ノ賊王三槐冷天祿等並ヒ起ル、勢日ニ熾ナリ、太平ヨリ陝ニ犯入ス、二年湖南略定ル、侍衛大臣額勒登保奏シテ將軍興肇ノ兵ハ襄陽ニ向ヒ、總兵張廷彦ノ兵ハ達州ニ赴キ、川湖陝三路ノ賊ヲ助剿セシム、賊亦隙ヲ窺ヒ、王廷詔ハ北路、李全ハ西路、姚之富王氏ハ中路、數万群ヲナシ、忽分レ忽合ヒ、忽南シ忽北シテ、我兵勢

ヲ牽ク時ニ姚賊孝義ヲ犯ス秦承恩惠齡慶成等拒戰ス賊南走シ李全王廷詔ト合ス柯藩之ヲ禦久賊漢陰ヲ渡リテ川賊ト合ス惠齡恒瑞之ヲ夾攻ス賊復遁ル帝諸將功ナキヲ責テ宜綿ニ命シ川陝ノ軍務ヲ總督セシム襄賊三路川ニ入ラントス宜綿等大兵ヲ以テ之ヲ會剿ス賊且戰ヒ且走リ以テ官兵ヲ綴ス官兵能得ルコトナシ時ニ賊湖北川陝ニ往來シ聚散數變官兵追擊要截奔馳シテ暇アラス晚ニ督撫ヲシテ壁ヲ堅クシ野ヲ清クシ逸ヲ以テ勞ヲ待タシメ信賞必罰將士

力ヲ竭シ巨賊始テ斃レ七年ニ至テ平久此役經略額勒登保參贊德楞泰功尤多レトス四年鎮草ノ黑苗吳陳受邊ヲ侵ス鳳凰廳同知傅鼐文武ノ材アリ苗愈撫スレハ愈驕ルヲ知り流亡ヲ招キ丁壯ヲ圍シ要害ニ碉堡シテ苗ノ出入ヲ遏截ス苗出テ掠ム即夜擣テ其巢ヲ燬キ又兵ヲ伏セテ大ニ殲ス苗氣始テ奪ハル太上皇崩ス五年艇盜閩浙ニ寇ス土盜鳳尾幫水澳幫內應ス定海總兵李長庚水師ヲ帥井テ之ヲ龍王堂松門山下ニ擊破ス會安南朝廷ノ約束ヲ奉レテ盡國內

ノ奸匪ヲ逐フ、使艇盜本安南ノ使ムル所ナリ其閩ニ在ル者皆漳盜蔡牽ニ并セラル、牽奸媚能、其衆ヲ使フ、勢復猖獗ナリ、六年雲貴總督琅玕鳳凰同知傅鼎ニ檄シ、貴州ノ苗ヲ會剿セシム、七年傅鼎永綏ノ苗ヲ平ム、鼎邊務ヲ總理ス、貴州ノ邊ニ螺螄堡ヲ設ク、湖南ノ守備ヲ移レテ之ニ戍ス、群苗因リテ舊城ヲ争ヒ占ム、鼎鄉勇ト苗兵トヲ以テ往テ六寨ヲ燒キ、窮追シテ陽孟岡ニ抵ル、萬苗突出ス、力戦シテ遂ニ之ヲ破リ、賊首石宗四ヲ生禽ス、八年傅鼎連ニ十六寨ヲ破ル、萬賊讐服シ、争テ兵ヲ納

レ羅拜犒迎ス、十一年ニ至リテ邊境盡平ラク、蔡牽定海ニ竄ス、李長庚之ヲ窮追シテ閩洋ニ至ル、賊佯リ降ル、閩督王德之ヲ聽ス、牽間ヲ得テ臺灣ニ走ル、九年李長庚ヲ閩浙水師總統トス、十一年蔡賊既ニ臺灣ニ抵リ、府城ニ據ル、李長庚之ヲ撃テ、連戦シテ皆捷ツ、十二年李長庚蔡牽ヲ粵洋ニ追テ、黑水外洋ニ至ル、牽僅ニ三船ヲ存ス、長庚偪リテ之ヲ攻ム、賊礮忽來リテ、長庚ノ喉ニ中リテ殞ス、牽安南海ニ入ル、帝長庚ヲ震悼シテ壯烈泊ニ追封ス、其裨將王得祿邱良功ヲ以テ其

任ヲ嗣カシム、十三年、浙兵蔡賊ヲ敗ル、邱良功
其黨駱亞盧ヲ殲ス、十四年、浙江ノ提督邱良功
福建提督王得祿蔡牽ヲ定海ノ漁山ニ合剿ス、賊
東南ニ遁ル、追ヒ偏リテ之ヲ火攻ス、賊且戰ヒ且
逃ル、良功大呼シテ賊船ニ駢ス、閩船隨テ賊船ニ
結フ、浙船死戦ス、予良功ノ昧ヲ貫ク、王得祿モ亦
傷ク、時ニ賊船援ナシ、得祿其船ニ火シ、又衝テ其
舵ヲ斷ス、牽礮ヲ舉テ自其船ヲ裂キ海ニ没ス、詔
シテ王得祿ヲ二等子ニ、邱良功ヲ一等男ニ封ス、
艇賊遂ニ平ク、十六年、西巡ス、十八年、畿輔ノ

レ羅拜犒迎ス、十一年ニ至リテ邊境盡平ラク、蔡
牽定海ニ竄ス、李長庚之ヲ窮追シテ閩洋ニ至ル、
賊佯リ降ル、閩督王德之ヲ聽ス、牽間ヲ得テ臺灣
ニ走ル、九年、李長庚ヲ閩浙水師總統トス、十
一年、蔡賊既ニ臺灣ニ抵リ、府城ニ據ル、李長庚之
ヲ撃チ、連戦シテ皆捷ツ、十二年、李長庚蔡牽ヲ
粵洋ニ追テ、黑水外洋ニ至ル、牽僅ニ三船ヲ存ス、
長庚偏リテ之ヲ攻ム、賊礮忽來リテ、長庚ノ喉ニ
中リテ殞ス、牽安南海ニ入ル、帝長庚ヲ震悼シテ
壯烈泊ニ追封ス、其裨將王得祿邱良功ヲ以テ其

任ヲ嗣カシム、十三年、浙兵蔡賊ヲ敗ル、邱良功
其黨駱亞盧ヲ殲ス、十四年、浙江ノ提督邱良功
福建提督王得祿蔡牽ヲ定海ノ漁山ニ合剿ス、賊
東南ニ遁ル、追ヒ偏リテ之ヲ火攻ス、賊且戦ヒ且
逃ル、良功大呼シテ賊船ニ駢ス、閩船隨テ賊船ニ
結フ、浙船死戦ス、予良功ノ腓ヲ貫ク、王得祿モ亦
傷ク、時ニ賊船援ナレ、得祿其船ニ火シ、又衝テ其
舵ヲ斷ツ、牽礮ヲ舉テ自其船ヲ裂キ海ニ没ス、詔
シテ王得祿ヲ二等子ニ、邱良功ヲ一等男ニ封ス、
艇賊遂ニ平ク、十六年、西巡ス、十八年、畿輔ノ

天里教匪李文成林清亂ヲ作ス、是歲星變アリ、賊
指シテ其應九月十五日午時ニアリトス、秋、獮回
鑾ノ時ニ乘シテ發セントス、滑、知縣强克捷之ヲ
聞キ、直隸總督高杞ニ密白シ、兵ヲ請フテ掩捕セ
ルトス、杞應ヤス、克捷乃李文成ヲ捕ヘテ獄ニ下
シ、其脛ヲ斷ツ、賊事ノ迫ルヲ以テ期ヲ俟タス、
テ衆ヲ聚メ滑ヲ破リ、文成ヲ出ス、克捷之ニ死ス、
林清期ニ及ヒ、其黨ヲシテ宣武門ヨリ内城ニ犯
入セシム、太監劉金等内應ス、時ニ皇次子烏銃ヲ
發シテ數賊ヲ殲シ、諸王大臣禁兵ヲ率井テ入衛

ス、暮ニ大雷電アリ、數賊震死ス、餘賊股栗シテ竄匿シ、禽ニ就ク、并テ賊ニ通スル内監ヲ禽ス、皇次子ヲ郡王ニ進ム、諸大臣賞黜差アリ、帝宮ニ還ル、林清ヲ黃村ニ禽ス、陝甘總督那彥成陝西提督楊遇春ニ詔シテ賊ヲ剿セシム、遇春李文成ヲ道口鎮ニ破リ、進ミテ滑城ヲ圍ム、山東直隸ノ官軍モ亦滑ニ臨ム、文成司寨ニ遁ル、那彥成總兵楊芳ヲ遣リテ之ヲ追フ、芳伏ヲ設ケテ賊ヲ敗リ、遂ニ司寨ヲ奪フ、文成自焚シテ死ス、官軍齊シク滑ニ集ル、楊芳隧ヲ掘リ火藥ヲ實テ城中ノ賊ヲ震殺ス、衆

此ニ乘シ城ヲ奪フ、賊ヲ殲スコトニ萬滑縣平ク、二十五年回賊張格爾邊ニ寇ス、乾隆ノ初、回酋大和卓木布那敦誅セラル、其子薩木克逃レテ教罕ニ匿ル、張格爾ハ即チ其子ナリ、經ヲ誦シ福ヲ祈ルヲ以テ財ヲ斂メ衆ヲ煽ス、南路ノ參贊大臣斌靜荒淫ニシテ回ノ心ヲ失フ、張格爾因リテ布魯特ノ衆ヲ糾シ、邊ニ寇ス、我兵擊テ之ヲ敗ル、宣宗皇帝名ハ綿寧道光五年張格爾復入寇ス、六年、張賊安集延布魯特ノ衆ヲ率井テ回城ニ突至ス、參贊慶祥將ヲ遣リテ之ヲ剿ス、賊退ク、張賊伊犁

北路ノ援兵ノ到ルヲ恐レ助ヲ教罕ニ求メ、喀城ヲ割クヲ約ス、既ニシテ約ニ背カントス、教罕首怒リ、獨所部ヲ督シテ城ヲ攻ム、克タスシテ遁ル、張之ヲ追フ、其衆張ニ歸スル者多シ、喀城遂ニ陷ル、英吉爾沙葉爾羌和闐三城亦陷ル、陝甘總督楊遇春ニ命シ、兵ヲ統ヘテ進剿セシム、賊已ニ西回城ヲ陷レ、浸、渾巴什河ニ逼ル、阿克蘇ヲ距ルコト近シ、我兵先北岸ノ賊ヲ剿ス、而シテ達凌阿庫車ヨリ、巴哈布哈拉沙ヨリ、先後來援シテ賊ヲ禽斬ス、賊南岸ニ走ル、我兵之ヲ追撃ス、時ニ大兵阿克蘇

ニ集ル、伊犁ノ將軍長齡提督楊芳ヲ遣リテ賊ヲ柯爾坪ニ破ル、遂ニ全カヲ以テ喀城ヲ搗カントス、七年、師洋阿巴特ニ抵ル、沙漠平曠、賊横岡ニ據ル、長齡、楊遇春、武隆、楊芳三路ヨリ進ミ攻ム、賊披靡シテ逃竄ス、追剿シテ渾河ノ北岸ニ至ル、喀城ヲ距ルコト十餘里、賊衆ヲ悉シ、城ニ背キテ一戰セントス、河ヲ阻テ壘銃ヲ列ネ、鼓角天ヲ震ス、我軍死士數百ヲ遣リテ、其營ヲ擾ス、夜ニ鼓西南風起リ、大霧晦暝、長齡退カント欲ス、楊遇春曰ク、是天我ヲ賛ルナリ、且客兵速ニ戰フニ利アリト、

乃索倫ノ千騎ヲ遣リテ、繞リテ下游ニ趨カシメ、親兵ヲ率井テ上游ヲ渡リ、上風ニ據リテ礮ヲ扛ク。礮勢風勢ト相并ヒ、百十萬兵ノ如シ、賊陣亂ル。曉ニ我軍盡渡リ、勢ニ乘リテ賊陣ニ入ル。賊土崩シテ敗レ遁ル。我軍喀什噶爾ニ抵ル、而シテ張賊己ニ遁ル。楊遇春、楊芳等連ニ英吉爾、沙葉爾、羗ヲ復ス。張賊教罕ニ走ル。教罕受ケス、長齡反間ヲ縱チテ曰ク、官兵徹シ、喀城空虚ナリ。諸回首ヲ翹ケテ和卓ヲ望ム。張果シテ至ル。楊芳兵ヲ嚴ニシテ之ヲ待ツ。賊變アルヲ知リ、回走ス。芳追撃シテ之

ヲ禽ス。八年、札隆阿ヲ喀什噶爾ノ參贊大臣トシ、壁昌ヲ葉爾羗ノ辦事大臣トス。十年、教罕安集延復入寇ス。初、張賊伏誅ス。那彥成其妻子ノ教罕ニ留マル者ヲ縛獻セシム。從ハス。帝其互市ヲ絶チテ之ヲ困ム。彥成并セテ内地ニ留高スル吏ヲ驅リ、且其貲ヲ没入ス。諸夷憤怒シ、張逆ノ兄王素普ヲ奉シ、布魯特ノ安集延ヲ糾結シテ入寇ス。我兵多ク覆没ス。時ニ葉爾羗城中兵少シ。壁昌商民ヲ城内ニ徙シ、回兵ヲ選派シ、各要隘ヲ分防ス。賊來ル、我兵邀撃シ、禽斬算ナシ。札隆阿、喀什噶爾ニ

在リテ亦賊ヲ擊敗ス、賊復葉爾羌ヲ犯ス、壁昌河
ヲ決シ賊ノ來路ヲ斷チ、擊テ之ヲ敗ル、哈豐阿ノ
援兵亦伊犁ヨリ至ル、賊風ヲ望ミテ瓦解ス、進ミ
テ英吉爾沙喀什噶爾ノ圍ヲ解ク、壁昌ヲ喀什噶
爾ノ參贊大臣トス、時ニ教罕大兵至ルヲ聞キ、援
ヲ俄羅斯ニ乞フ、俄納レス、困厄シテ遂ニ來降ス、
十一年、湖粵ノ猺亂ル、永州錦田ノ猺趙金龍常
寧ノ猺趙福才鬼神ヲ以テ衆ヲ惑ス、楚粵ノ奸民
天地會ヲ結ヒ、猺寨ノ牛穀ヲ強劫シ、其峒ヲ妖媚
シテ亂ヲ作ス、十二年、猺長塘ノ夾冲ニ據ル、游

擊王俊擣チテ之ヲ燬ク、賊藍山ニ竄ス、總督盧坤
湖北提督羅思舉ニ命シテ赴キ剿セシム、官兵賊
ヲ驅ル、賊常寧ノ洋泉鎮ニ竄ス、羅思舉等之ヲ攻
ム、賊詐リ降ル、思舉首逆ヲ縛シ、攻ルコト益カム、
連日猺六千ヲ殲ス、趙金龍槍ニ中リテ死ス、十
九年、英吉利廣東ヲ犯ス、初英吉利阿片烟ヲ齎シ、
亞馬港及廣東諸地ニ來リテ交市ス、其人ヲ耗害
スルヲ以テ屢禁ス、レトモ止マス、帝林則徐ヲ廣
東總督トシ嚴ニ之ヲ禁ス、且英商持スル所ノ烟
數ヲ盡シテ送呈セシメ、悉之ヲ火消ス、又馬港ニ

往キテ之ヲ禁スルコト前ノ如シ、英船退キテ香港ニ繫泊ス、則徐沿海ニ命シ、英人ノ上岸ヲ防ク、英益困ム、是ニ於テ邊海ヲ侵掠シ我船ヲ火ス、二十年、英船來リテ其囚奴ヲ請フ、與ヘス、既ニシテ英將布冷墨兒厄兒利阿多十數口ノ戰艦ヲ率井テ來リテ舟山ヲ攻ム、我兵潰ニ、英兵遂ニ之ニ據ル、尋テ乍浦ヲ陷ル、布冷墨兒廈門ヨリ書ヲ致サントレテ、船ニ白旗ヲ建テ其戰船ニ非サルコトヲ示ス、我軍一切之ヲ拒キ、矢砲兩射ス、布冷墨兒怒リテ曰ク、我此、怨ヲ報イスハ已マスト、乃寧

波ヲ來侵ス、英兵復寧波ニ偪ル、居民集リテ之ヲ防ク、英船誤リテ淺沙ニ入り、膠レテ動クコト能ハス、乃砲ヲ發シテ行カントス、砲聲一震船身忽裂ク、居民之ニ乘レ進ミ攻ム、一女將アリ、驍勇ニシテ善ク戰フ、終ニ之ヲ擒ス、英俘曰ク、是英國第三ノ公主ナリ、英將書ヲ致シ請テ曰ク、公主ヲ還サハ侵地ヲ還サン、然ラスハ大舉シテ必相報イシ、二十一年、定海、欽差伊里布廣東、欽差琦善英ノ公主ヲ放還ス、英兵敢テ退カス、更ニ怨ヲ報イントス、俄ニ廣東ヲ侵シ、閩粵ヲ擾ス、所在烽火天

ニ連ル、帝大ニ怒リニ欽差ノ官ヲ禡ヒ、京ニ逮致
ス、琦善途ニ縊死ス、林則徐先ニ變ヲ激スルヲ以テ職ヲ禡ハル是ニ至リテ改
テ四品京堂ヲ授ケ任帝奮テ親征セント欲ス、群
臣之ヲ諫止ス、皇弟綿塏ヲレテ代リテ往カシム、
滿州ノ兵五万之ニ從ス、皇姪奕山先發ス、既ニシ
テ大兵廣東ニ達ス、戰多ク利アラス、英兵砲撃シ
テ城堡及船艦ヲ碎ク、我兵死スル者万數、我兵既
ニ數敗ル、英從テ和議ヲ唱ヘテ曰ク、兵ヲ退クル
六十里、幣ヲ納ル六百万ナラハ、即兵ヲ收メ、我
將陽リテ之ヲ聽ク會、英帥僕囁嗟及彪吾卧烏古

兵船ヲ率ヰテ馬港ニ達ス、英軍勢百倍ス、我復城
堡ヲ築キテ守備ヲ脩ム、英兵來リテ厦門ヲ攻テ
之ヲ拔ク、尋テ定海鎮海香港寧波ヲ攻テ皆之ヲ
取ル、彪吾卧烏古大舉シテ乍浦ヲ攻ム、城備嚴重、
兵八千滿兵過半、英軍岸ニ上リ、水陸火槍ヲ以テ
夾攻ス、滿兵ノ伏ニ遇ヒ殆ト敗レントス、英奮闘
砲撃甚勵シ、滿兵少シク沮ム、英突撃シテ之ニ乘
ス、乍浦遂ニ陷ル、二十二年、英兵進ミテ揚子江
ヲ奪ヒ轉シテ上海ヲ攻ム、火礮電撃ス、提督陳化
成之ニ死ス、上海從テ陷ル、英ノ後軍繼テ至ル、遂

ニ進ミテ鎮江府ヲ侵ス、我兵皆遁ル、鎮江亦陷ル、
初帝一意英寇ヲ剿セント欲ス、諸大臣皆戰ヲ欲
セス、是ニ至リテ伊里布ヲ起シテ相トシ、欽差耆
英ト往キテ英將喫噉嗟鳴喇嚟ト會議シテ和ヲ
講ス、盟書中載スル所、消烟銀二千一百萬、今年銀
六百萬兩ヲ償納シ、南京河及上海ノ英船退去セ
シ、約スル所ノ償銀全數ノ納メ畢リテ、舟山古浪
嶼ノ英船悉ク退カシ、又伊里布ニ命シ廣東ニ往
キテ、其船來往ノ貨稅ヲ定ム、二十八年、廣西盜
起ル、地方鄉保ヲ立テ、之ヲ禦久時ニ總督徐廣

縉殘暴ニシテ百姓憤怒シ、凶匪益已マス、洪秀泉
ト曰フ者港ニ到リ、西教書ヲ講習シ、西人ノ工銀
ヲ得テ、廣ニ往キテ傳道ス、馮雲山ト曰フ者、亦往
キテ之ヲ講論ス、初、鄉保ニ入リ盜ヲ禦久會、人其
邪教ヲ唱ルヲ告ク、官之ヲ捕フ、雲山逸シ、黨ヲ聚
メテ相拒ク、是ニ於テ洪馮共ニ叛賊ノ罪ヲ得タ
リ、二十九年、周天爵、向榮ニ命シテ馮洪二賊ヲ
剿セシム、洪等鄉民ヲ率井テ蓄髮易服シテ朱明
ヲ恢復スト稱ス、勢漸猖獗ナリ、三十年、帝崩ス、
誠宗皇帝名ハ載淳咸豐元年、向榮兵ヲ帥井テ洪

賊ヲ斜谷ニ擊ツ、克タス、永安從テ陷ル、二年洪賊永安ヨリ桂州ヲ圍ミ、又湖南ニ入リ、連ニ諸城ヲ陷レ、長沙ヲ圍ミ、岳州ニ克ツ、遂ニ湖北漢陽ニ入ル、地雷火藥ヲ以テ武昌城ヲ轟陷シ、之ニ據ル、三年、洪賊錢江ヲ得テ謀主トシ、其言ヲ用井南京ヲ取リテ根本ノ地トセントス、船ニ乘シテ東下シ、九江府ヲ攻破シ、安慶葉湖ヲ破リ、米銀婦女ヲ獲ルコト算ナシ、官兵禦クコト能ハス、退キテ南京ヲ守ル、南京亦守ラス、洪賊遂ニ取リテ之ニ據ル、既ニシテ諸路ノ大兵聚合シテ南京ニ向フ、

洪惶遽シテ兵ヲ收メ城ヲ守ル、欽差向榮鍾山ヲ襲フテ之ニ勝ツ、洪賊兵ヲ出シ、又敗ル、賊數利ヲ失フ、卒ニ南京ヲ棄テ、走ル、官兵鎮江ヲ攻メ、又江寧ヲ攻メテ、大ニ賊ヲ夾口ニ敗ル、洪賊臨淮ニ據リ、兵ヲ出シテ鳳陽ヲ陷ル、又汴梁ヨリ汜縣ニ竄シ、分レテ河南山陝ヲ擾ス、賊洛ヨリ河ニ溯リ、溫縣ヲ擾ス、亳州陷ル、知州孫椿之ニ死ス、時ニ湖北廣濟縣ノ民亂ル、廣西湖南凶匪又起ル、分合定形ナシ、到ル所劫掠肆行ス、此禍咸豐ヲ終ルマテ未止マスト云フ、七年廣東一武弁アリ、衆ヲ率井

テ英吉利ノ划船ニ至リ舟子十二人ヲ執ヘテ其旗ヲ奪フ、蓋舟子ハ皆我邦人ナルヲ以テナリ、英ノ領事巴篤斯書ヲ總督葉名琛ニ致シテ曰ク、和約中照會ノ後ニ執フルノ言ト符セズ、宜シク十二人ヲ送還シテ、自誤辨ニ任スヘシ、葉可カス、領事再書ヲ致シ之ヲ促ス、從ハスハ軍法ヲ以テ從事セントス、葉乃十二人ヲ領事ノ署ニ送還ス、領事受ケスレテ曰ク、當ニ原船ニ還スヘシ、否スハ水師其責ニ任シ、貴國ト從事セシ、葉置キテ問ハス、英師乃黃埔沿河ヲ攻メテ礮臺ヲ毀シ、葉人ヲ

領事ニ遣リテ英將ト論ス、英將曰ク、當ニ城ニ入リテ面議スヘシ、我答ハス、英師城ヲ攻ム、城破ル、乃葉ニ言ハシメテ曰ク、若再前言ヲ執リテ聽カスハ此ノミニシテ止マス、葉復書レテ辨明ス、英將論詰益急ナリ、葉終ニ受ケス、一日英ノ小船礮臺下ヲ過ク、我礮ヲ發シテ之ヲ撃ツ、英ノ師船驟ニ至ル、我船江面ニ環列シ、礮ヲ開キテ相向ス、英船亦相撃テ、我船及礮臺ヲ破ル、葉名琛猶前議ヲ執リテ論辨ス、英將省セズ、時ニ英商ノ粵ニ在ル者亦同時ニ火セラレ、館舍貨寶盡焦土トナシ、英

ノ貨船黃埔ニ在リ、夜小艇アリ來リテ書ヲ船長ニ致サントシ、誘フテ船長ヲ拽下レ去ル英將領事ト黃埔ニ傳擧シ、旁求スレトモ得ス、後英人葉名琛死ス、廣省ニ歸葬ス、葉洪賊其黨楊氏ト隙アリ、兵ヲ以テ揚ノ第ヲ圍ミ、之ヲ斬ル、揚ノ妻孥皆斬ラハ、又其餘黨ヲ誘縛シテ盡之ヲ坑ニス、八年英吉利ト和ス、盟約ヲ定ム、光洋二百萬元ヲ以テ焚ク所ノ英ノ屋費ヲ償ヒ、又二百萬元ヲ以テ英ノ兵費ヲ償フヲ許ス、浙江鄞縣ノ逃軍史致芬亂ヲ作ス、初、東錢湖陶公山ニ忻姓ノ者約五千餘家大

都漁ヲ業トス、漁時洋ヲ出レハ縣牌照ヲ領給シテ後初テ關ヲ出ツ、其稅漸重シ、漁戶皆怨苦ス、致芬俠氣アリ、鄉里ニ信セラレ、是ニ於テ俱ニ致芬ニ謀ル、致芬爲ニ屢官ニ訟フ、官致芬ヲ押ス、衆漁縣堂ニ至リ、致芬ヲ還スヲ請フ、因リテ之ヲ廣西ニ發遣シ、軍ニ充ツ、會廣西亂ル、致芬逸出シテ鄉ニ回ル、漁戶大ニ喜ヒ、至寶ヲ得ルカ如シ、致芬遂ニ自局ヲ立テ、漁船ニ牌照ヲ領給ス、一紙七百文、極メテ輕シ、是ニ至リテ復捕ヘラル、漁戶復訟ス、官復之ヲ釋ス、是ヨリ致芬公然官ト抗シ、衆ヲ率

井テ打劫殺略ス、遂ニ捕ヘテ之ヲ凌遲ス、英吉利
ノ欽差火船六只ヲ以テ漢口ニ往カントシテ、將ニ
南京ニ近ツカントス、長毛賊即洪英船ヲ望ミテ
砲ヲ開ク、英船モ亦之ヲ砲撃ス、又兩岸ノ砲臺ヲ
毀ル、時ニ長江一帶皆長毛ナリ、一夕ニ英兵ニ敗
ラレ、終ニ和ヲ乞フ、英未許サス、既ニシテ毛賊勢
復盛ナリ、寧波杭州上海尤其禍ヲ被ル、英佛ノ領
事諭示シテ、獨上海其侵犯ヲ免レタリ、九年英
米佛三國ノ欽差、北京ニ駐劄セントス、去年議約アリ、今之
ヲ殘火輪船廿號先後シテ去ル、是ヨリ先僧格琳

沁ニ命シ、天津口ノ要處ヲ防堵シ、砲臺ヲ増修シ、
鐵木椿ヲ以テ江口ヲ沈塞ス、是ニ至リ英ノ水師
提督先至リ船板ニ駕シテ口ニ進ム、民ノ椿ヲ樹
ツルヲ見テ之ヲ詰ル、民曰ク、椿ヲ樹ツハ海盜ニ
備フルナリ、爾カ爲ニ非ス、何ノ猜忌カアラビ、爾
且暫、停ルコト數日ナラハ、我輩椿ヲ拔キ去ルヘ
シ、既ニシテ兵船陸續シテ駛近ス、江口ノ椿益加
ハル、是ニ於テ英船火藥ヲ以テ排椿ヲ轟壞ス、衆
船隨テ椿中ニ駛入ス、兩岸一兵ヲ見ス、英船乃敢
テ入ル、忽聞ク砲聲雷起シ、飛彈兩射ス、英船進マ

ント欲スレハ椿ニ阻メラレ、退カント欲スレハ
船ニ推擠セラレ、兼テ潮落ノ時、船沙上ニ擱シ動
クコト能ハス、最進ノ三隻船皆砲ニ壞ラル、提督
亦傷ヲ被ル、會、米船來リ救ヒテ、纜ニ津口ヲ出ル
コトヲ得タリ、時ニ英佛ノ兵岸ニ上ル、岸上泥沙
脛ヲ汙没シ、行歩シ難シ、又屢深坑ニ陥リ、火藥盡
濕ヒ、皆前ムコト能ハス、夜半纜ニ船ニ回ルコト
ヲ得タリ、提督欽差火船三隻ヲ江口ニ留メテ、皆
上海ニ回ル、十年、英佛ノ兵大舉シテ北京ヲ侵
ス、英佛ノ兵既ニ敗ル、再兵船百隻ヲ帥ヅテ北京

ヲ攻ム、先天津口ニ泊ス、英其北ニ在リ、佛南ニ在
リ、先太沽ノ砲臺ヲ擊ツ、滿兵砲ヲ開キテ拒戦ス
敵攻撃甚急ナリ、一大礮砲臺ヲ射ル、其聲天地ヲ
撼カス、滿兵大ニ亂ル、敵之ニ乘シ、遂ニ砲臺ヲ奪
フ、我兵死傷算ナシ、僧格淋沁奔リテ京ニ入ルニ
國ノ兵進ミテ天津ニ入ル、直隸總督恒福書ヲ以
テ先和ヲ議ス、尋テ帝花沙納ヲ遣リテ和ヲ議ス、
兩軍我虚誑ヲ知り、三隊ニ分レテ北京ニ向フ、通
州ニ抵ル、滿兵之ヲ擊ツ、兩軍大砲ヲ開キテ我營
ヲ擊裂ス、我兵大ニ亂ル、兩軍之ヲ猛擊ス、馬兵亦

之ニ從フ、我兵死スル者二千、二國ノ兵遂ニ通州ニ入ル、北京ヲ離ルコト二十里、滿兵又出テ、戰ヒ、又敗ル、是ニ於テ使ヲ遣リテ和議ヲ通シ、皇弟恭親王其事ヲ勾當ス、告ク英佛官皆聽カス、遂ニ攻テ北京ニ入ラントス、帝熱河ノ圓明園ニ奔ル、英佛ノ兵遂ニ京城ヲ奪フ、是ヨリ先英人白旗ヲ樹ツル者二十人、前廣東ノ領事巴篤斯ト云フ者モ其中ニ在リ、滿兵ニ獲ラル、是ニ至リテ生還スル者大半其餘ハ盡、死屍ヲ歸ス、英人大ニ怒リ、圓明園ヲ焚ク、後恭親王出テ、和議ヲ行フ、議成リテ二國ノ兵去ル

其兵費八百萬圓ヲ賠償シ、又三十三萬圓死者ノ命ヲ償フ、同治帝、同治元年、兩湖江蘇安徽浙江等賊匪紛擾シテ攻撃止マス、因リテ英吉利ニ就キテ火輪船ヲ造リ來リテ之ヲ助剿セシム、紹興包村ノ包立生異術ヲ以テ團ヲ結フ、手下千餘人皆蓄髮シテ巾ヲ白シ素ヲ吃ス、賊至レハ寶劍ヲ其向フ所ニ設ク、賊衆輒戈ヲ抛チ敢テ敵セス、嘗テ賊營ニ赴キ餉銀ヲ借ラントス、賊之ヲ拿ヘ斬ラントス、忽見エス、既ニシテ錢粟五萬ヲ失ス、唯符ヲ留メテ在ルノミ、符中書スル所ノ數、其失

12110, 22-5-4

漢史一

卷四

文部省

スル所ト合大賊大ニ驚異ス、是ヨリ賊大ニ包立
生ヲ恐ル

漢史一斑 第四卷大尾

定本卷二